

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
女性研究者研究活動支援事業（一般型）

平成 25 年度

# 男女共同参画推進室 事業報告書

平成 26 年 3 月



京都府公立大学法人 京都府立大学



# 目次

I	はじめに	
	ごあいさつ .....	3
	平成 25 年度 事業報告書の発行にあたって .....	4
II	事業概要	
1	事業概要（平成 25 年度～平成 27 年度） .....	7
2	実施体制 .....	7
3	事業の枠組 .....	8
4	平成 25 年度 事業計画 .....	9
III	事業報告	
	男女共同参画推進委員会 開催記録 .....	13
1.	ライフイベント中の研究者を対象とした両立支援（かつらプロジェクト） .....	15
	総括 .....	15
1-1	研究支援員の配置 .....	16
1-2	人材登録制度の構築に向けたアンケート調査 .....	22
1-3	夜間・休日・病児保育支援 .....	23
2.	若手研究者育成（あおいプロジェクト） .....	24
	総括 .....	24
2-1	キャリアアップ支援 .....	25
2-2	メンター制度 .....	26
2-3	キャリアパスアドバイス、カウンセリング .....	26
3.	意識啓発 .....	31
	総括 .....	31
3-1	シンポジウムの開催 .....	32
	シンポジウムアンケート結果 .....	35
3-2	ホームページの開設 .....	40
3-3	男女共同参画推進室 リーフレットの発行 .....	40
3-4	男女共同参画推進室 ニュースレターの発行 .....	40
3-5	情報収集・渉外・広報活動 .....	41
4.	女性研究者の採用人数及び上位職女性研究者の増加に向けた取組 .....	42
	総括 .....	42

#### IV 資料

ニュースレター .....	45
リーフレット .....	49
卒業生の就業状況調査依頼文及び調査票 .....	51
本学における女性研究者・学生に関する基礎データ .....	59

#### V 規程・要項

京都府立大学男女共同参画推進委員会規程 .....	67
京都府立大学女性研究者研究活動支援事業による研究支援員制度利用者募集案内 .....	69
京都府立大学女性研究者研究活動支援事業による保育支援プログラム利用者募集案内 .....	72
京都府立大学女性研究者研究活動支援事業による「京都府立大学あおいセミナー」募集要項 ....	74

#### VI 実施体制

平成 25 年度 男女共同参画推進委員会 委員一覧 .....	79
平成 25 年度 男女共同参画推進室 室員一覧 .....	79

# I はじめに



## ごあいさつ

京都府立大学は、これまで「堅実」な校風をモットーに教育研究を進めてきました。本学の前身のひとつは、1927年（昭和2年）創立の京都府立女子専門学校です。「桂女専」の名で府民に親しまれた本学は、京都府における女子高等教育の推進にあたって先駆的役割をはたし、大学となった今日に至るまで、堅実な女性の社会進出に大きく貢献してきました。このたび文部科学省科学技術人材育成補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、この校風を一層展開する機会を手にすることができました。

本事業の目標は、文学・公共政策・生命環境科学分野において優秀な女性研究者を育成し、地域社会の発展に貢献するところにあります。今後は、男女共同参画推進室を中心に、京都府、京都府立医科大学、府立大学同窓会などの関係機関や組織と連携して、本学の女性教員・若手研究者・卒業生が相互に支えあう女性ネットワークを構築し、男女共同参画社会の形成に向けて、様々な事業を推進してまいります。皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成26年3月 京都府立大学 学長 渡辺 信一郎

## 平成 25 年度 事業報告書の発行にあたって

### 学びやすく働きやすい大学をめざして

2014 年（平成 26 年）2 月 27 日はあいにくの雨でしたが、本学にとって記念すべき日となりました。

女性研究者研究活動支援活動事業の開始を記念するシンポジウムを開催したこと、それに参加する男性教員が女性研究者である配偶者と生後 2 ヶ月の赤ちゃんを同伴されたことです。5 号館 3 階の臨床栄養学実習室が急ごしらえの保育室となり、シンポジウムの間は専門の保育士により、保育をしていただきました。たった 1 名、3 時間でしたが、本学において保育室開設の第 1 号でありました。保育を依頼した男性教員は育児休暇取得第 2 号になる予定です。

本学では、2000 年（平成 13 年度）にハラスメント（当時はセクシャルハラスメント）防止委員会を設置し、女性の人権に配慮し、権利を守る取組が始まりました。その後、平成 22 年に 2 名の女性教員が教務部長と学生部長に選任されました。入学式の日、壇上の 2 人の姿に感慨一入でした。

同年、本学と同一法人下の京都府立医科大学では、志のある女性医師数名が女性研究者モデル育成事業に申請、採択され、男女共同参画推進センターを設置、病児保育室「こがも」も開設されました。子どもは病気にかかることによって免疫力をつけ成長していきます。その時、そばにいられるのがよいとはいいうものの、どうしても出勤しなければならないときがあります。私は、病児保育の必要性を強く感じ、定年退職後の仕事にしたいと考えていたほどです。

2012 年（平成 24 年）1 月に渡辺信一郎学長から、「保育所を作れとまでは言わないが、女性の立場で女性教員の支援をしてほしい」とのお話をいただき、副学長を拝命して男女共同参画に取組んで参りました。自主的に集まった教員によって準備委員会を立ち上げ、事業採択後に正式に男女共同参画推進委員会と運営にあたる推進室を発足させることができました。

ここに採択の通知を受けてから 7 カ月間の取組をまとめました。出産・育児・介護にあたる女性研究者への支援、女子学生のキャリア形成を目的としたセミナー等を開催致しました。這い這いをはじめた乳児のようです。二本の足でしっかりと歩くまでには、何度も転ぶことでしょう。保育第 1 号の赤ちゃんが成人されるころまでには、誰もが働きやすい社会を創造していきたいと願っています。

男女共同参画、女性研究者の教育研究と多様な人々との協働が一層進む、一助となれば幸いです。

平成 26 年 3 月 20 日 春雨の降る日に

京都府立大学 副学長

男女共同参画推進委員会委員長

男女共同参画推進室長

生命環境科学研究所教授

東 あかね

## II 事業概要



## 1 事業概要（平成 25 年度～平成 27 年度）

### 事業目的

意欲溢れる女性研究者が等しい機会のもとに生き生きと学び働く大学の実現を目指すと同時に、地域の「知の拠点」として男女共同参画の理想的なモデルを提示し、多様で優秀な女性研究者を育成し、高等教育研究機関としての社会的役割を果たすことを目的として、「女性教員・若手研究者・学生・卒業生が相互に支え合うネットワーク形成事業」を実施する。

### 達成目標

本事業により女性研究者がライフィベントを乗り越えて研究・教育を継続できる環境の整備を図り、女性研究者の裾野拡大を推進し、女性研究者の在職比率が 3 年後に 23.4 %となることを数値目標として設定する。

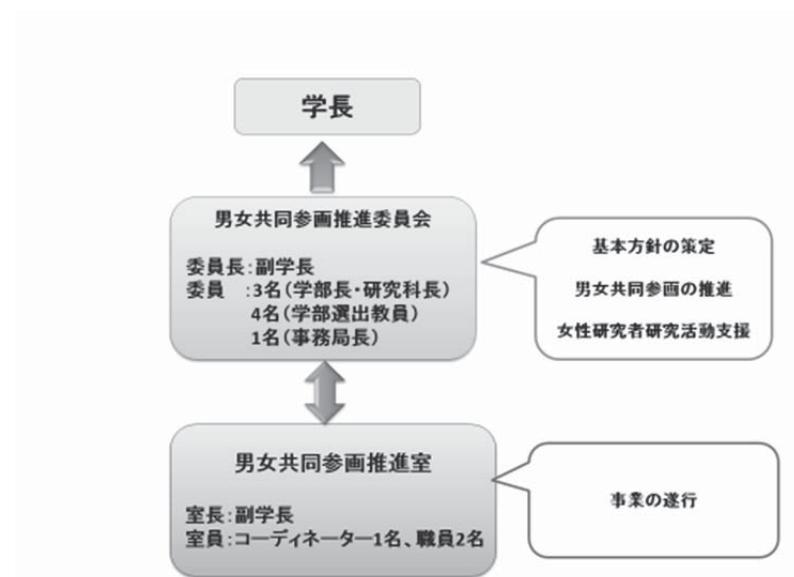
また、女性研究者の上位職登用を進めるために具体的な施策の構築をめざす。

## 2 実施体制

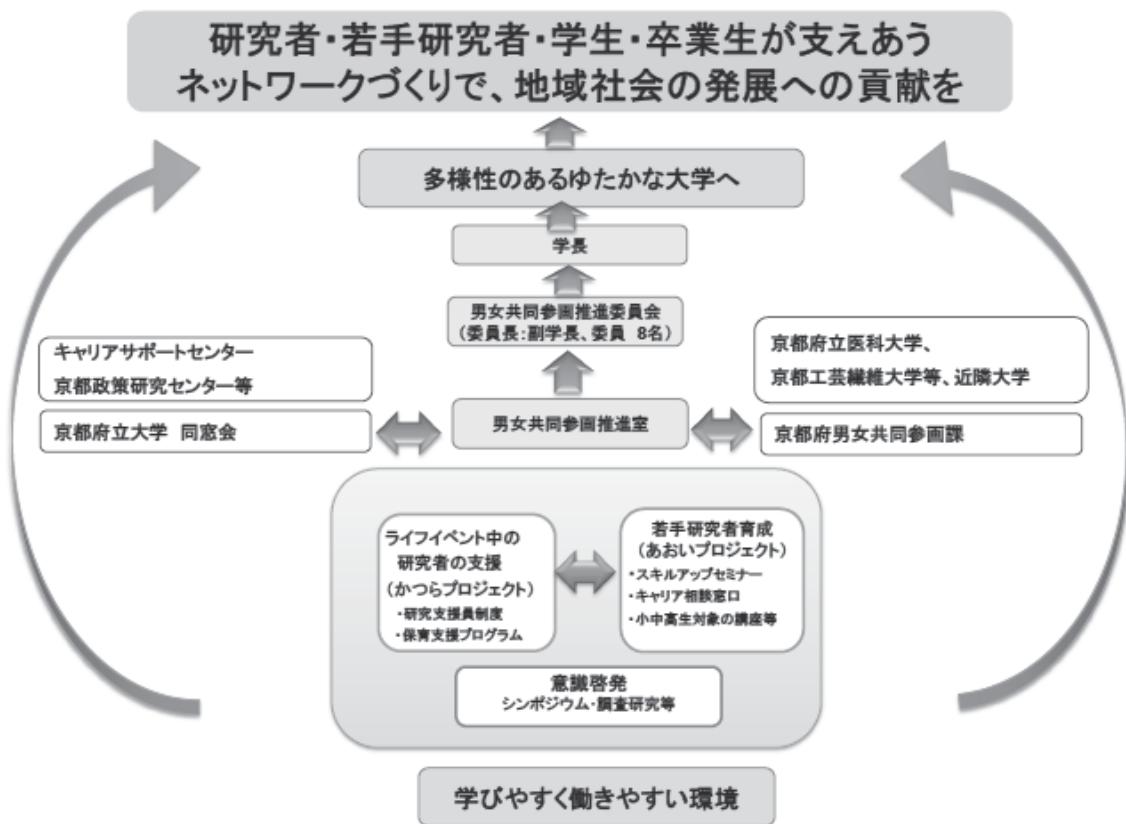
全学的な組織「男女共同参画推進委員会」を設置し、本事業の計画立案、実施、及び評価を行う。事業の遂行には、新たに設置した「男女共同参画推進室」があたる。

「男女共同参画推進室」には、室長 1 名（学内兼務）、全体コーディネーター、事務員を配置する。男女共同参画推進室は下記の機関と連携を図り、事業を進める。

- ① 学内の関係部局（キャリアサポートセンター、管理課、企画課、学生部、京都政策研究センター）
- ② 京都府立大学同窓会
- ③ 京都府立医科大学男女共同参画推進センター
- ④ 京都府男女共同参画課



### 3 事業の枠組



#### 研究者支援事業 (かつらプロジェクト)

子育てや介護等のライフイベント中の研究者を対象に、両立支援を行います。

#### 若手研究者支援事業 (あおいプロジェクト)

若手女性研究者を対象に、キャリア形成の支援を行います。

#### 意識啓発活動

地域社会との連携により男女共同参画社会の実現に向けた啓発活動を行います。

#### 4 平成 25 年度 事業計画

##### 男女共同参画に関する推進体制の整備及び拠点の設置

- ・ 男女共同参画推進委員会を設置する。
- ・ 男女共同参画推進室を開設する。
- ・ 男女共同参画に関する基本方針の策定を行う。
- ・ 室員の決定や運用規程、各種制度構築のための規程の策定を行う。
- ・ 女性研究者支援及び大学の男女共同参画に関する学内外の情報を集約する。
- ・ 学内の関係部署、本学同窓会における連携の可能性とその方法について検討する。
- ・ 連携大学（京都府立医科大学男女共同参画推進センター、京都工芸絹維大学男女共同参画推進センター）及び京都府男女共同参画課との連携の方法について検討する。
- ・ 公立大学としての男女共同参画推進を通じた地域貢献のあり方について検討する。

##### 女性研究者支援及び男女共同参画に関する事業実施

###### (1) 研究支援（かつらプロジェクト）

###### a. 研究支援員の配置

ライフィベント中にある教員に対して、高度な専門知識、技術を有する本学大学院生・修了生を研究支援員として雇用し、研究支援制度の運用を開始する。

###### b. 人材登録制度の構築に向けた環境整備

本学同窓会と連携して卒業生を対象とした就業状況調査を実施し、研究支援を必要とする教員と支援員候補者のマッチングを行う「人材登録制度」の構築のための準備を行う。

###### c. 夜間・休日・病児保育支援

ライフィベント中の教員に対して、夜間・休日・病児保育施設の利用料を助成する保育支援制度の運用を開始する。

###### (2) 若手研究者育成（あおいプロジェクト）

若手研究者の将来に対する不安解消や精神的支援を目的としたキャリアパス支援の事業展開について、女性若手研究者、院生を対象に事業を通じてニーズ把握を行い、適切な支援のあり方を検討する。

###### a. キャリアアップ支援

###### b. メンター制度

###### c. キャリアパスアドバイス（相談窓口）、カウンセリング

###### d. 女性ネットワーキング

(3) 意識啓発

- ・ 早期に学内外に男女共同参画推進の機運を高めるために、全学規模でのキックオフシンポジウムを行う。
- ・ 男女共同参画推進室の事業概要を紹介するリーフレットを作成し、本事業の学内外への周知を行う。
- ・ 男女共同参画推進室のホームページを開設し、広く情報発信を行うとともに、ニュースレターを定期的に発行して、情報発信を行う。

(4) 女性研究者の採用人数及び上位職女性研究者を増加させる取組

- ・ 公募や採用の具体的方法について検討する。

### III 事業報告



## 男女共同参画推進委員会 開催記録

### 第1回 男女共同参画推進委員会

日時 : 平成25年11月8日(金) 9:00~10:15

#### (審議事項)

1. 男女共同参画委員会副委員長の選出
2. 女性研究者支援事業 プロジェクトリーダーの選出
3. 男女共同参画推進室体制の決定

#### (報告事項)

- ・ 同窓生を対象とした就業状況アンケート調査の進捗報告
- ・ 基本方針の策定について

### 第2回 男女共同参画推進委員会

日時 : 平成25年12月6日(金) 9:00~10:15

#### (審議事項)

1. 保育支援プログラム実施要項の策定
2. 研究支援員の決定
3. 男女共同参画推進室員新規雇用の決定
4. キックオフシンポジウム内容の決定

#### (報告事項)

- ・ 同窓生就業状況アンケート調査進捗報告
- ・ 情報発信・発行物刊行のスケジュール報告

### 第3回 男女共同参画推進委員会

日時 : 平成26年1月17日(金) 9:00~10:15

#### (審議事項)

1. 保育支援プログラム利用教員の決定
2. 京都府立医科大学病児保育室「こがも」利用料金の決定
3. 若手研究者育成事業「あおいセミナー」規則の決定
4. キックオフシンポジウムチラシ案の決定

#### (報告事項)

- ・ JST 視察報告
- ・ 若手研究者育成事業「あおいサロン」広報チラシの共有
- ・ 研究支援員制度利用教員による研究テーマの報告
- ・ 次年度事業計画書の作成進捗報告
- ・ 同窓生を対象としたアンケート調査の進捗報告

#### 第4回 男女共同参画推進委員会

日時 : 平成26年2月7日(金) 9:00~10:15

(審議事項)

1. 京都府立医科大学病児保育室「こがも」利用覚書の締結書の決定
2. 若手研究者育成事業「あおいセミナー」企画案の採択決定

(報告事項)

- ・ 研究支援員制度の利用状況報告
- ・ 同窓生を対象としたアンケート調査の進捗報告
- ・ 若手研究者育成事業「第1回あおいサロン」開催報告
- ・ 2月27日キックオフシンポジウム進捗状況報告
- ・ 情報発信（ホームページ及び推進室紹介リーフレット）作成進捗状況報告
- ・ 次年度調書の作成スケジュール報告
- ・ 平成25年度科学技術振興調整費による実施プロジェクトの評価結果の共有

#### 第5回 男女共同参画推進委員会

日時 : 平成26年3月7日(金) 9:00~10:15

(審議事項)

1. 男女共同参画推進委員会規程の一部改正について
2. 基本方針の策定について

(報告事項)

- ・ 研究支援員制度利用教員による報告書の共有
- ・ 同窓生を対象としたアンケート調査進捗報告
- ・ 若手研究者育成事業「第1回あおいセミナー」開催報告
- ・ 2月27日キックオフシンポジウム 参加者アンケート結果の共有
- ・ 意識啓発事業における情報発信（ホームページ・事業報告書）作成の進捗状況
- ・ 次年度事業計画書及び予算書（調書）の共有

## 1. ライフィベント中の研究者を対象とした両立支援（かつらプロジェクト）

### 総 括

川分圭子 文学部教授  
(かつらプロジェクトリーダー)

本プロジェクトについては、本年度中に、①研究支援員制度、②保育支援プログラム、③同窓会との連携による人材登録制度の3つの制度構築に着手し、①、②は実際に運用を開始し、③については準備として卒業生・修了生へのアンケート調査を終了した。

①研究支援員制度については、対象研究者と支援員の選定、支援に係る研究テーマの設定、支援時間の配分などを、適宜JSTからの指導を受けながら、各研究者・支援員の仕事（研究）・生活の状況に可能な限り配慮して実施中である。②保育支援プログラムについては、病児保育の支援活動が最も重要であるという考えにたち、2種類の制度を併用する体制を構築した。このうち一つ目の制度は、京都府立医科大学がすでに運営している病児保育室「こがも」を本学教員にも利用可能とするための大学間の協力体制の確立であり、もう一つは、本学独自の保育支援プログラム（病児保育や夜間・休日保育サービスを利用した場合、利用料の一部を支援するもの）である。前者の制度については、利用の方法や料金、時間などの細目を年度内に決定し、来年度からの利用開始の準備を完了した。また、本学の保育支援プログラムについては、すでに対象研究者を選定し、制度の運用を開始した。以上①②の制度については、制度設計に時間を要し、運用の開始は秋頃となってしまったが、制度の周知を徹底させ、追加募集したり、男女共同参画推進室で担当者から時間をかけて説明するなどして実施した。後述の報告書の通り、本制度は利用教員、研究支援員ともに好評であった。

③に関連して行ったアンケートについては、就業状況全体の把握のため、男性、女性両方の同窓生に対し実施した。本年度内に、アンケートの作成から実施・回収・分析と報告書の作成までを完了することができた。3分の1以上の回答率を得ることができ、また記述による多数のコメントをもらい、同窓生の研究者支援事業や就業状況に係る、母校と同窓生の連携体制への関心の高さに改めて気づかされたことも、大きな収穫であった。

## 1-1 研究支援員の配置

ライフィベント中の教員を対象に、研究と出産・育児等の両立支援の環境整備を図るための研究支援員制度を創設し運用を開始した。また、研究支援員は本学の大学院に在籍する学生を雇用し、研究支援員が研究能力の向上や研究者としてのロールモデルの生き方を身近に理解することの一助にもなっている。

今後は、利用教員の数に見合った研究支援員の確保や、研究支援員である大学院生の学業・研究活動に支障をきたさないような制度のあり方の検討が必要である。

### <支援対象者>

支援対象者は、本学の常勤教員であって、以下に掲げるいずれかの項目を満たしている者とした。

- ・ 妊娠中の女性教員、または妊娠中の配偶者（大学教員に限る）を有する男性教員
- ・ 女性教員、または配偶者（大学教員に限る）を有する男性教員で、中学校3年生までの子どもを養育中の教員
- ・ 女性教員、または配偶者（大学教員に限る）を有する男性教員で、市町村から要介護の認定を受けている親族（同居、別居は問わない）を介護している教員
- ・ その他、上記に準ずる理由により研究活動を行う時間が確保できない教員

### <スケジュール>

研究支援員利用者募集案内の開始（10/24）

研究支援員 16名決定（11/8）

研究支援員説明会の開催（11/19、11/20、11/22、11/25）

研究支援員利用者募集案内（追加募集）の開始（11/14）

研究支援員追加募集分 7名決定（12/6）

研究支援員制度利用教員 意見交換会（12/18、12/20）

研究支援員（追加募集）説明会の開催（12/25、12/26、12/27）

### <利用状況>

利用教員数	女性教員 6名（子の養育）、2名（介護）	
	男性教員	2名（子の養育）
研究支援員数	大学院博士前期課程	14名（女性11名 男性3名）
	大学院博士後期課程	4名（女性4名）
	博士前期課程修了者	1名（女性）
	博士後期課程修了者（本学非常勤講師）	1名（女性）
	博士後期課程修了者（本学特別研究員）	1名（男性）
	辞退（研究活動多忙のため）	2名（女性1名、男性1名）

<研究支援員制度 利用実績 10件>

被支援者 (教員)	A	B	C
業務内容	動画や映画 DVD を用いた英語教育を改善するための (1)英語教育(特に世界諸英語教育)に利用可能な動画の調査、 動画・映画を授業で用いた際の受講生の反応の記録と分析	研究資料の収集と整理 学会資料作成の補助	研究資料の複写・整理 資料の作成
研究推進における成果	『世界のことばを読む事典』(仮)の「英語」の項目の執筆を開始した。その際に、世界諸英語の観点から英語を考える際の学習者から見た問題点につき、研究支援員と、これまでの研究支援の成果をふまえて議論をすることができた。現在「世界諸英語教育における動画サイトの利用」に関する論考を『現代英語談話会論集』投稿予定で準備を進めている。	先行研究の収集が以前より容易になり、研究時間を以前より確保できるようになった結果、論文(解説)1本をほぼ仕上げることが出来た。 科研や府大ACTRなどの共同研究の打ち合わせや研究会に参加しやすくなつた。 学会出席など、拘束時間の長い研究活動に参加しやすくなつた。	本プログラムの利用により、「モダニズム期における英米詩の研究」及び科研「世界諸英語に関する理解を深めるための映画英語教育」を例年よりも進めることができた。
生活面における成果	研究支援員の支援を受けることにより、研究において作業に従事する時間を軽減することができた。このことにより、研究生活、家庭生活における時間的余裕が生まれた。		資料の整理や作成を支援員に担当してもらうことにより、心的負担が軽減された。
研究支援員 1	学部生からの質問は鋭いものが多く、非常に興味深かった。また、その回答を考えることにより自身の知識も深まった。支援の内容も気軽にできるものだったので、楽しくやり抜くことができた。	様々な論文・研究雑誌の整理や、それに関して先生とお話をさせていただきました。自分からはなかなか目を通さないものの中にも、自分の研究テーマと関係がありそうな論文が掲載されていることに気付いたり、最近になって研究がさかんになっているテーマを知ることができた。来年度提出する修士論文や、今後自分の研究テーマを発展させていく材料にできると思う。	映像資料の考察などは、これまで自分の研究ではあまり行っていなかったので興味深く、言語関係の文献に接する機会になって有益だった。私自身の研究にも適用できると考えます。
研究支援員 2		留学生に対する支援において、自身の研究分野についての研究調査方法等を再確認すると共に、新たな研究方法を知ることができた。その点で、特に今回の支援員活動が有意義であったと思う。	日頃は自分の専門分野である狭い範囲の研究のみを進めていますが、自分と異なる研究内容の文書などを扱うことで、広く英語圏の文学を学ぶことができたように思います。 活動を行う中で、先生からお話を伺う機会が増えたことで、研究に関わるアドバイスを受けることができて、研究を進める上で役に立ちました。

被支援者 (教員)	D	E	F	G
業務内容	食品由来成分の健康増進作用に関する研究の補助 動物実験：モデルマウスの解剖、サンプル作成等	GISによるデータの作成・解析と統計解析の結果を反映した地図の作成、これらの研究に関わるシンポジウムのパワーポイントの作成補助 科研に関わるナラ枯れ枯死木の予想に関わる衛星画像解析とパワーポイント作成、QGISによるCSI立体図の作成とその手法説明のパワーポイント作成	京都市近郊林に優占するブナ科樹木の種子捕食者の把握と捕食者が種子による更新に及ぼす影響の解明についての研究補助	コホート調査における3歳6ヶ月児健診時の調査準備と栄養調査等の遂行 データ管理 データ解析 論文投稿
研究推進における成果	3か月の支援であるが、動物実験で有意なデータを得ることができ、今後研究論文や学会発表に反映できる予定である。	科研に関わる衛星画像によるナラ枯れ枯死木の予測においては、衛星画像解析の補助をしてもらうとともに、パワーポイントを作成してもらったことで、学会（11月）で発表することができた。 また、研究支援員の補助により、受託研究で必要な解析を決められた期日までに修了し、報告書を作成することができた。 また、地域課題研究では、支援員の補助により作成したGISデータを利用し解析を行った結果を、3月末の学会にて発表する予定である。	研究支援員の利用により、現在投稿中の論文が2本あり、さらに複数の論文を作成する予定である。また研究の進展により、今後の外部資金の獲得へ向けての礎ができつつある。	研究結果の一部については英文誌に投稿中であり、編集委員会からの指摘を受け、修正中である。研究支援員がデータの再解析や論文修正を補助することにより論文投稿、論文修正を迅速に行うことができている。研究支援員の学位取得の一助となると考えられる。
生活面における成果	研究支援員の利用により、保育園の送迎や授乳、離乳食の時間に遅れることなく勤務することができ、子どもの生活環境におおきなメリットがある。	多くの研究と学生の調査・指導を抱えている中、受託研究や地域課題の研究の解析やその結果の取りまとめを決められた時期までに仕上げるには、残業をしないと間に合わない状況であった。しかし、研究支援員に一部担当してもらったおかげで、残業する日を月2回程度と少なくすることができた。もともと子育てで残業できる日がほとんどない中で、毎日「終わらない」ことに苛立ちを感じながら帰宅していたため、研究支援員のサポートにより、精神的にも少し余裕を持って帰宅することができた。	研究者は常に業績を問われる立場にあるにもかかわらず、育児でほとんど自分の時間がとれず、肉体的にも疲労して、精神的にきつい状態が続いていた。しかしながら、研究支援員の利用によって、滞っていた研究活動を進めることができ、また支援員との交流の中で、身体的・精神的に大変助けられた。こうしたことから、今後の研究の発展へ思考を向けることができた。	研究支援員制度を活用することで、大幅な残業時間の軽減につながった。また、研究費の管理やデータ解析等を研究支援員が補助することで、時間配分に余裕がでたことから、精神的な負担が減り、家庭や介護と両立して、集中して研究活動に取り組むことができるようになったと感じている。

被支援者 (教員)	D	E	F	G
研究支援員 1	今回の支援員の業務は学内（研究室）で行う業務が多かったため、自分自身の研究と並行して業務を進めることができたのが良かったと思います。私が現在博士課程において進めている実験は、一度スタートさせると数日かかるものや、待ち時間（試薬との反応時間）があるものが多いため、学内でできる作業に従事することにより、自分自身の研究との両立が可能でした。また、研究室業務を行うにあたり、自分自身の立場ややるべきことが明白となり、来年度以降の参考にもなりました。	支援員採用前は主に自身の研究に取り組めばよかったですですが、研究を補助するようになり、その中でとてもおもしろさを感じるようになりました。その理由として、自分の研究内容では取り扱うことのないデータや解析手法と携わるようになり、新たな知見を得ることができたからだと思います。支援員としての活動は、支援者の可能性を広げる機会であったように思います。	研究活動が活発に行われる研究室で過ごさせていただいたことで、私自身の研究に対するモチベーションが上がったと考えています。勤務期間中、仕事に従事する中で、いかに勤務先の研究室の皆さんがあざ面目に一生懸命研究に取り組んでいるかが日々伝わってきました。支援員としてのこの経験を通じて、他分野の知識を得、視野が広がっただけではなく、改めて一生懸命取り組むことの重要性を感じ、私も頑張らなくてはという良い刺激を多く受けました。私にとって非常にプラスになった 5 か月間でした。	教員や共同研究者、調査地区的担当者と密に連絡を取りながら実施することができ、研究を円滑に遂行することができた。また、給与が支給されることで、より研究に専念にする時間を確保することができた。自分自身が育児、介護を行いながら研究に従事している。介護を行いながら研究・教育に従事している女性研究者はメンター的な存在であり、支援を行うことで、自身の研究者としてのあり方や将来の展望などを考える機会となった。
研究支援員 2	所属研究室では行うことができなかった動物実験を経験させてもらったことで、自分の研究スキルと幅を大きく広げることができた。また、得られた実験結果を基に、共同研究として学会発表や論文にして頂いたため、研究業績にもつながった。	研究資料の作成作業の支援をしたことにより、自身の知識や情報処理能力が向上したことを感じた。	今回従事した研究は自分の調査対象と異なっていたため、違った角度から自らの研究の意義や立ち位置を再確認することができた。	
研究支援員 3		今回、研究支援員として活動したことで気付いた点、得られた効果を 2 点挙げる。 一つ目は、今回支援した教員は 3 人のお子さんがいる女性研究者であったが女性研究者を支援する取り組みの重要性を認識することができた。 二つ目は、研究支援員として他の研究の解析や指導を行うことで自分の研究をより客観的に捉えるきっかけとなつた。	従事した研究は私の研究と同じ都市近郊林で行っています。私はツツジ属樹林に着目していますが。この研究では別の樹種で、かつ動物の影響についても触れていたため、より多角的な視点をもって研究地を見られるようになったと思います。	

被支援者 (教員)	H	I	J
業務内容	ジェンダー政策に関する論文の収集とサマリーの作成、障害者福祉政策に関するインターネットの記事の収集と整理、翻訳と分類	他大学図書館での研究資料の収集	文献・資料の入手および整理 地域福祉領域における事例やその過程に関する資料の収集と整理および解釈(利用教員に不足している点を補うべく専門的知識の観点から協力を得る)
研究推進における成果	雇用期間が短いため、研究論文数や国内外発表件数等の増加、外部資金の獲得向上、共同研究の増加等に直接的な効果は少ないと思われる。年間を通じて研究支援員が雇用されていて、なおかつ研究以外の業務の支援を受けることができれば、上記の領域においても具体的な数値的向上が見られると考える。 具体的に述べると、通常ならば3本論文を提出できた研究者が、出産・育児・介護によって0本となるところが本制度の活用によって1本提出できた、という効果が出る可能性が高く、研究論文や学会報告が「増加」する可能性は著しく低いと考えられる。本制度の評価方法は、「増加」ではなく「低下率の減少度」という尺度にすべきである。	研究論文の作成が進んだ。支援員を付けていただることによって、今まででは資料収集に膨大な時間を要していたが、その点を克服することができ、本来の研究活動により時間を割くことが可能であった。2014年4月に論文を学会誌に掲載予定(7月刊行予定)。	文献や資料の整理を支援してもらうことで、報告書自身は著書と論文の執筆に集中することができ、来年度の発行・発表に向けて目途をつけることができた。 また、さらにその次の成果を出すための基盤として、収集した文献・資料を検討するための定期的な研究会の開催を実現することができた。なお、その研究会の成果の整理およびコーディネート業務にも支援員の効果がある。 こうした研究成果の積み上げと、研究会による基礎資料の読み込みは、今後、外部資金を獲得するための準備としても非常に重要なものであり、この点でも研究推進における効果を見込むことができた。
生活面における成果	大学が出産育児介護を研究者の個人的な問題とせずに、制度的に支援してくれているという精神的な安心感は、「研究意欲の向上」において多大なる効果がある。	研究支援を利用することで、身体的な面での改善があったと思う。時間が限られている中で、支援員に分担して資料収集をしていただいたことで、拘束時間が軽減された。	良い研究成果を上げるために綿密な準備が必要であるが、研究支援員の利用によって、報告者自身の作業を減らしながら、質の高い準備を行うことができており、より本來的な作業に集中することができるという体制づくりに関しては著しい改善が見られた。 上記の研究成果における改善とも相まって、実際に学内に留まらざるを得ない時間を大いに削減することができているため、子育てを中心とする家庭生活に充てる時間を大幅に増やすことができている。そのことがさらなる精神的な余裕を生み、研究活動と家庭生活の両面で好循環をもたらしている。
研究支援員 1	調査票の作り方や調査設計について、今後の自身の研究への参考になった。	教員は講義の準備や学生の評価に多くの時間を要します。受講学生が多くなるとその負担も多大となります。育児や介護を行う教員にとってこのような支援員の存在は大きいものと考えます。 今回、比較的簡単なお手伝いしか行いませんでしたが、それでも教員の負担はいくらか軽減できたと感じています。	主として補助的な業務に携わっていたため、そういった作業から直接的に自らの研究に対するフィードバックを得たという実感はない。 自らの研究に対する効果としては、エピソード的な要素が大きいが、研究会のコーディネートおよび参加を行うことで、同世代の研究者と交流を図りネットワークを作ることができたこと、意見を交換することで刺激を受けかつ研究的知見を得、あるいは深められたことの意義は大きいと感じている。

	H	I	J
研究支援員 2	海外、とりわけイギリスにおける障害者福祉制度であるパーソナルバジエット制度に関する文献収集を通して、パーソナルバジエット制度が作られた背景・経緯・仕組みなどを深く知ることができた。さらに、日本における障害者福祉制度との比較により、両国の障害者福祉制度の違いを確認・理解することができた。		教員の作業補助を通して、研究とは違う面からも教員と携わることができ、研究のみならず、幅広く研究者に必要なスキル（例：講義内容をどのようにするか、学生への対応等）を学ぶことができた。
研究支援員 3			この活動をとおして、これまで漠然ととらえていた地域福祉論の学説史を明確に整理することができた。また、物事を機能的にだけでなく、構造的に把握する視点の重要性を理解した。地域福祉を多面的にみる先行研究の理解をふまえ、今後の自身の研究活動においても、多面的な視点をもって進めていきたいと考えている。



教員を対象とした研究支援員制度説明会

## 1-2 人材登録制度の構築に向けたアンケート調査

本学同窓会の協力を頂き、卒業生の現在の就業状況と、キャリア形成におけるライフイベントの影響の度合いについて把握するため「京都府立大学卒業生・修了生就業状況調査」を行った。

本調査は、卒業生の中から研究者としてのキャリア形成や復職を望む研究支援員候補者を探し出し研究支援員として雇用すると共に、「人材登録データベース」構築に向けての基礎資料とすることを目的とした。

なお、同窓会と連携による卒業生を対象とした就業状況調査は本学初めての試みである。

### <卒業生・修了生就業状況調査概要>

郵送によるアンケート調査（11/26 発送、12/20 締切）

調査票送付対象者 : 829 名（学部卒業後 5 年、10 年、15 年）男性 263 名、女性 566 名

転居先不明による返送者 : 63 名

調査対象者 : 766 名

回答数 : 276 名（回答率 36%）男性 65 名、女性 211 名

#### 調査項目

- ・ 卒業直後の就業状況について
- ・ 現在の就業状況について
- ・ ライフイベントが就業に与える影響について
- ・ 仕事と家庭の両立のために必要な取組について（意識調査）
- ・ 自由記述

#### 調査報告書

- ・ 平成 26 年 5 月に刊行予定

### 1-3 夜間・休日・病児保育支援

女性研究者の出産・育児と研究活動の両立を支援することにより、研究活動が一層活性化するよう、子どもの発熱時や夜間、休日に利用する保育利用料に対して助成をする制度の運用を開始した。

#### <支援対象者>

本学の研究者（特任、学術研究員を含む）で、下記のいずれかに該当する者

- ① 小学校6年生までの子どもを養育中の女性研究者
- ② 配偶者（大学等で日常的に研究を行う研究者に限る）を有し、小学校6年生までの子どもを養育中の男性研究者

#### <スケジュール>

京都府立医科大学病児保育室「こがも」利用に関する打ち合わせ(10/17)

子育て中の女性教員を対象にした保育支援のニーズ調査 (11/8)

京都府立医科大学病児保育室「こがも」利用に関する打ち合わせ(12/12)

かつら PJ ミーティング (12/20)

保育支援プログラム利用者募集案内及び要項の策定 (12/27)

保育支援プログラム対象者の募集開始 (1/7)

保育支援プログラム対象者の決定 (1/17)

京都府立医科大学病児保育室「こがも」利用に関する打ち合わせ(2/5、2/27)

#### <保育支援プログラム対象者>

5名（女性研究者4名、男性研究者1名）

#### <保育支援プログラム保育料助成制度利用実績>

1月…教員1名

2月…教員1名

3月…教員1名

## 2. 若手研究者育成（あおいプロジェクト）

### 総 括

リントゥルオト正美 生命環境科学研究科 准教授  
(あおいプロジェクトリーダー)

5ヶ月という短い事業期間であったが、若手研究者育成（あおいプロジェクト）では、若手研究者を対象とし、キャリアパス形成を考える場を提供することを目的としたあおいサロンおよびあおいセミナーを計4回開催した。あおいサロンは男女共同参画推進室を中心となって開催し、研究機関や企業の最前線で働く女性から話題提供をしていただいた上で、少人数のワークショップ形式でこれからの働き方やライフイベントとの付き合い方を語り合い、研究領域や立場を超えて、気軽に悩みを共有し、交流を図るネットワーキングの場として位置づけている。一方、あおいセミナーは学内教員が企画するセミナーへ助成を行うもので、女性研究者を講師とし、研究者としてのキャリアパスに関して話を頂くセミナーである。サロン、セミナー共に、体験談に基づくライフイベントの観点からのセミナー開催は従来あまりなく、学部生から教職員まで幅広い参加があり、満足度も高く好評であった。

来年度は、これらのセミナーの開催継続に加え、ロールモデル集の発行、学内における女性研究者のランチョンミーティングの開催などを計画しており、女性ネットワークの構築を通じた教育研究上の繋がりの拡大や分野を超えた研究などの発展を促すことを目指す予定である。

メンター制度については、今年度は先行して実施している他大学へのヒアリングなどを行った。来年度は引き続きマッチング運用の課題を調査し、メンター候補者を対象とした研修を行うなど、制度の運用を開始する予定である。キャリアパス相談などの相談窓口の開設については、学内の関係部局（キャリアサポートセンター、学生相談室）と協議を行い、制度の構築について情報収集を行ってきた。来年度は、相談窓口の開設を目指している。

今年度を振り返って、前述の「かつらプロジェクト」との連携によるライフイベント中の教員への支援は確実に進んできたといえる。一方で若手女性研究者支援事業「あおいプロジェクト」については、全研究科で女性院生がほぼ半数を占める中で、若手女性研究者が実質的に何を必要としているのか詳しいニーズ調査が必要であり、今年度はあおいサロンやセミナーなどの場を利用して、実質的支援の具体的な内容についてニーズ把握に努めてきた。その結果、将来を考える上での漠然としたキャリアパス形成への不安、経済的支援の必要性、研究スキルの向上などが課題であることが明らかになってきている。今後、さらに調査を続け、具体的な支援の検討、事業への反映など、本学の若手研究者の現状に即した支援を行っていく。

## 2-1 キャリアアップ支援

ロールモデルセミナーとして、少人数のワークショップ形式で行う「あおいサロン」(計1回)と、教員からの企画提案で行う「あおいセミナー」(計3回)を開催した。

### 「あおいサロン」開催

第1回 「キャリアデザインと仕事観～府立大OGが語る、“スマートワーク”とは？～」

日時：平成26年2月5日（水）16:10～17:30

講師：田畠真理氏（大阪ガス株式会社人事部ダイバーシティ推進チームマネジャー、本学OG）

参加者：27名（教員8名、職員10名、学生・院生9名）

### 「あおいセミナー」開催

第1回 「理系女子のライフ・ワーク・バランス」

日時：平成26年3月3日（月）15:00～16:00

講師：高木 由美氏（株式会社メイベル 代表取締役）

参加者：27名（教員3名、職員2名、学生・院生22名）

企画協力：生命環境科学研究所 生命物理化学研究室

第2回 「女性研究者による公衆栄養学の教育研究のこれまでと今後の発展」

日時：平成26年3月8日（土）13:30～16:30

講師：古川 曜子氏（京都光華女子大学 講師）

池田 順子氏（京都文教短期大学 名誉教授・本学非常勤講師）

参加者：7名（教員）

企画協力：生命環境科学研究所 健康科学研究室

第3回 「続けることの大切さ」

日時：平成26年3月10日（月）13:30～15:30

講師：丸山 美帆子氏（大阪大学大学院工学研究科 特任助教）

参加者：17名（教員2名、職員1名、学生・院生14名）

企画協力：生命環境科学研究所 生体物質化学研究室

## 2-2 メンター制度

他大学の制度を参考に、メンター制度のあり方を検討するミーティングを行った。

(11/18、12/10)

## 2-3 キャリアパスアドバイス、カウンセリング

今年度中の相談窓口の設置をめざしていたが、女性若手研究者のニーズ把握及び相談体制の基盤づくりを優先し、ニーズ把握を行った。

学生相談室相談員及び臨床心理士（2名）へのヒアリング（12/18、12/20）

学生保健研修会「府立大学の学生を取り巻く状況とその対応について」参加（3/13）



第1回あおいサロン



文部科学省 平成25年度科学技術人材育成費補助事業  
「女性研究者研究活動支援事業」若手研究者育成プロジェクト

こんな人に  
おすすめ！

- 企業で働き続けるコツを知りたい学生・院生  
(男性も大歓迎)
- ライフサイクル（結婚・出産・育児）との  
付き合い方を考えたい学生・院生
- 大手企業でのダイバーシティ推進や、  
両立支援のリアルな姿を知りたい教職員

「あおいサロン」は、先輩に出会い、  
将来の働き方・生き方のヒントを得  
る、少人数のサロンです。  
毎回、ゲストをお迎えして、参  
加者との対話形式で進めていきま  
す。

## 第1回あおいサロン

# キャリアデザインと仕事観

～府立大OGが語る、“スマートワーク”とは？～

2014年2月5日(水)16:10～17:30

(5号館3F 臨床栄養学実習室 5351号室)



スピーカー：田畠真理さん  
(大阪ガス株式会社人事部ダイバーシティ推進チームマネジャー)

京都府立大学農学部農芸化学科(土壤・植物栄養学講座)卒。  
1986年、大阪ガス(株)入社。研究所、商品開発部を経て、1999年、京都リサーチパーク(株)  
出向。ベンチャー企業誘致などに従事。2005年、(株)アイさぼーとに出向し、MOT(技術経  
営)スクール事業を担当。2008年、帰社(環境部)。2010年からCSR・環境部CSR室長。グ  
ループのCSR推進とレポート編纂のほか、グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク  
(GCJN)、企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)等対外活動にも関与。2013年より現職。

主催：京都府立大学 男女共同参画推進室 (担当：鈴木)

TEL 075-703-5143 E-mail danjo@kpu.ac.jp

\* 当日の参加も可能ですが、事前の申し込みをお願いします。  
氏名、所属、メールアドレスを記入の上、上記まで申し込みください。



## 申込不要

### 【内容】

- 経営者という働き方
- 理系女子のある一日
- ライフ・ワーク・バランス  
(ワーカーホリックからの脱出)
- ライフプランニング(欲張りに生きる)

「あおいセミナー」は、気鋭の研究者をお招きして、研究職としてのキャリア形成のヒントを得るためにセミナーです。

第1回目は、ベンチャー企業の経営者をお招きして、女性研究者と経営者としての日常について、お話をいただきます。

# 第1回あおいセミナー

## 理系女子のライフ・ワーク・バランス

~起業を選んだ若手女性研究者の奮闘記~

2014年3月3日(月)15:00~16:00

(図書館 視聴覚室)

スピーカー:高木由美さん (株式会社 メイベル 代表取締役)

2003年、龍谷大学理工学部物質科学科卒。有機合成とDDSの研究に取り組む。  
卒業後は専門学校生活を経て、子供の頃から興味があった動物病院で看護師として勤務。  
2005年、大手化学メーカーの研究員としてμTAS用高感度免疫試薬の開発に従事。「抗体」について学ぶ。  
2008年、「抗体」を売りにした株式会社メイベルを設立。  
経営から実験まで会社運営に係る様々な業務に日々奮闘中。



主催:京都府立大学 男女共同参画推進室 (担当:鈴木・長谷川)

協力:生命環境科学研究科 生命分子化学科 織田研究室

問い合わせ: TEL 075-703-5143 E-mail danjo@kpu.ac.jp

## 第2回 あおいセミナー

- ◆日時◆ 平成26年3月8日(土)13:30~16:30
- ◆場所◆ 5号館3階 5352号室 (当日参加可能)
- ◆演題◆ 「女性研究者による公衆栄養学の教育研究のこれまでと今後の発展」

### ◆講師◆

古川 曜子 先生 京都光華女子大学 講師  
池田 順子 先生 本学非常勤講師  
京都文教短期大学名誉教授

私たちは1995年に予防医学と公衆栄養学の教育と研究に携わる女性研究者の研究会を発足させ20年になります。きっかけは出産を期に離職した後輩の女医が、いつかは復職したいと希望しており、その支援の目的で5名の女性研究者が集まって、研究会を開催したことです。当初は月1回、現在は年3回のペースで論文抄読、研究発表、論文作成の相談、そして公私にわたる情報交換を行ってきました。メンバー全員が子育てを経験しており、先輩がロールモデル、お互いがメンターとなり、コーチングを勉強して、仕事と家庭生活を両立させてきました。離職した人は、子育てが一段落した後、産業医としての復職を果たすことができました。各人の所属は多岐にわたり、ネットワークが構築できました。現在は、学生教育の改善や若手研究者の育成を心がけています。今回は、京都府内の4大学1専門学校の管理栄養士課程の公衆栄養学担当教員(全員女性)が連携協力して取り組んだ公衆栄養学教育の学生評価に関する調査結果を共有し、学生教育をさらに良いものにするための話をします。講義、演習及び臨地実習を含む実践的教育研究と生活との調和のとり方について、経験の共有やお互いの助言を行い、教育研究と生活の質と充実させることを目的とした討論を行います。

◆連絡先◆ 大学院生命環境科学研究科 健康科学研究室 東 higashi@kpu.ac.jp, 075-703-5416  
男女共同参画推進室(鈴木・長谷川) danjo@kpu.ac.jp, 075-703-5143

# 第3回 あおいセミナー

◆講師◆ 丸山 美帆子 先生

大阪大学大学院工学研究科 特任助教

◆演題◆

## 続けることの大切さ

◆日時◆

平成26年3月10日(月)13:30~15:30

◆場所◆

図書館 視聴覚室 (当日参加可能)

私は、中学生の頃に学んだ環境問題に対して、自分にも何かできることはないだろうか?と強い使命感を感じ、東北大学理学部の地球科学系に入学しました。そこで出会った結晶成長という分野に魅せられ、なぜだろう、どうしてだろう?を追求すべく博士課程まで進学しました。そんな私が職を得たのは、工学研究科の電気系の研究室。なぜだろう、どうしてだろうはさておき、とにかく世の中の役に立つ高品質結晶を作ることを目的とする研究室でした。理学部的な考え方と工学部的な考え方の違いに戸惑いながらも、新たな使命であるタンパク質の高品質結晶を育成する技術開発に全力で取り組み始めたその頃、自分の中に新しい命を授かったことを知りました。キャリアとプライベート、両方に大きな転機が訪れた瞬間でした。

本セミナーでは、前半に私のこれまでの研究について簡単に紹介させていただいた後、女性研究者にとっていつか訪れる上記のような転機を、私がどのように過ごしてきたかをお伝えしようと思います。ほんの一例ではありますが、こういうパターンもあるのかと、少しでも参考にしていただければ幸いです。

◆連絡先◆ 生体物質化学研究室 高野

takano@kpu.ac.jp, 075-703-5654

男女共同参画推進室 鈴木・長谷川

danjo@kpu.ac.jp, 075-703-5143

### 3. 意識啓発

#### 総括

小沢修司 公共政策学部 教授  
(意識啓発プロジェクトリーダー)

意識啓発については、本年度中の取り組みとして、①女性研究者支援事業の開始を機に本学における男女共同参画推進の機運を高めるためのキックオフシンポジウムの開催、②男女共同参画推進室の開設と事業概要を紹介するパンフレットの作成、③男女共同参画推進室のホームページを開設し情報発信を行う、④ニュースレターを発行して情報発信を定期的に実施する、の4点を目標に掲げ、①については後述するように2月27日に実施し支援事業のスタートを記念しつつ本学における男女共同参画を推進する機運を盛り上げることができたと考える。また、②パンフレット作成、③ホームページ開設、④ニュースレター発行についてもすべて着手することができ、今後の事業推進ならびに男女共同参画推進室の活動を本学の内外で進めていく足がかりを築くことができた。

①キックオフシンポジウムを開催するにあたっては、第1に、女性研究者支援事業を主管する科学技術振興推進機構の山村康子氏から女性研究者支援を巡る全国的な動向と本事業の狙い、そして本学での取り組みへの期待を伺うこと、第2に、ロールモデル講演として、先行して女性研究者支援事業に取り組んでこられた佐賀大学男女共同参画推進室の北川慶子氏から女性研究者のキャリア形成としてご自身の活動の振り返りを含めてお話を伺うこと、第3に、本学での女性研究者支援の課題を浮き彫りにするために、子育てと研究の両立に取り組む現役女性研究者ならびに本学出身で民間企業で研究に従事している女性研究者のお話を伺い、山村氏や北川氏を交え、フロアの参加者を含め本学における事業推進における課題抽出と問題意識の共有を図ろうという獲得目標を設定した。参加者には、同窓会や京都府、京都市における男女共同参画行政の担当者の姿もあり、大学における事業展開にとどまらず広く地域的ならびに階層を越えた取り組みに発展していく手がかりも得られたことは大きな成果といえよう。

②パンフレット作成、③ホームページ開設、④ニュースレター発行については、作成したパンフレットを広く配布すること、ホームページを絶えず新しい情報に更新すること、ニュースレターを定期的に発行することが必要である。

なお、意識啓発の一環として、情報収集・渉外・広報活動にも旺盛に取り組んできた。

### 3-1 シンポジウムの開催

男女共同参画推進室開設を記念して、キックオフシンポジウム「大学における男女共同参画・女性研究者支援の推進に向けて」を下記のとおり開催した。本学の教職員対象の人権研修を兼ねると共に新聞掲載など広く学外にも広報し、多数の学外者の参加も得ることができた。

- ・ 実施日時 平成26年2月27日（木） 午後2時から5時
- ・ 実施場所 京都府立大学 大学会館2階 多目的ホール
- ・ 共催 京都府立大学人権委員会・京都政策研究センター
- ・ 後援 京都府
- ・ 参加者数 92名（内訳 一般23名、職員37名、教員28名、大学院生4名）

#### 事業の概要

渡辺信一郎学長からの主催者挨拶の後、特別講演「女性研究者の現状と京都府立大学への期待」と題し、山村 康子 氏 ((独) 科学技術振興機構 科学技術システム改革事業 プログラム主管) より、女性研究者支援の政策動向と本事業の成果、他大学の女性研究者事業の事例紹介、府下唯一の公立総合大学としての本学への期待について講演があった。続くロールモデル講演では、「未来を担う女性研究者への期待」と題し、北川 慶子 氏（佐賀大学男女共同参画推進室室長 佐賀大学文化教育学部教授）より、佐賀大学女性研究者支援モデル育成事業「三世代サポート型佐大女性研究者支援」の紹介がなされ、女性研究者がキャリア形成する上で将来の自分を思い描けるロールモデルの必要性やメンターの重要性について講演があった。

後半のパネルディスカッションでは、本学の助教1名と卒業生1名がパネリストとなり、本学小沢修司公共政策学部教授（男女共同参画推進委員会委員）がモレーティーをつとめ、前述の山村氏、北川氏をコメンテーターとして「京都府立大学における男女共同参画及び女性研究者支援の現状と課題」と題したディスカッションを行った。女性研究者のポジティブアクションの実現可能性への質問や、男女共同参画推進室事業における地域貢献機能の強化、自治体との連携、同窓会との連携について、活発な議論が交わされた。参加者からの質問やパネリスト自らの経験を踏まえた内容となり、男女共同参画を自らの問題として捉える意識改革の一助になった。

## 事業の成果

- ・学内 69 名、学外 23 名の参加があり、大学における男女共同参画推進の必要性及び文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」への理解を深めることができた。
- ・立場も経験も異なる 4 名の女性研究者ロールモデルを提示することができた。
- ・教職員や学生だけでなく、本事業のステークホルダーである、同窓会、男女共同参画や女性研究者支援事業に係る他大学の担当者、男女共同参画推進施策に係る自治体職員（京都府・京都市）が一堂に会し、キックオフへの機運を高めることができた。
- ・学内の男女共同参画推進や研究者の両立支援の環境整備を行うことが、働きやすく学びやすい大学づくりにつながり、ひいては本学の使命である地域社会への貢献に寄与するという、本事業の趣旨への認知を高めることができた。
- ・課題としては、春期休業中であったため、学生の参加が少なかった点が挙げられる。





京都府立大学 男女共同参画推進室  
開設記念キックオフシンポジウム

# 大学における 男女共同参画・ 女性研究者支援の 推進に向けて

入場無料

定員: 100名

事前申し込み

当日参加可能

2014年

2月27日(木)  
14:00~17:00  
at

京都府立大学 大会館2階  
多目的ホール

今年度、京都府立大学では、女性研究者のための支援プログラムが文部科学省「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、研究・教育の場や大学運営において男女共同参画を進めるための取り組みが始まりました。この事業のスタートを記念して、さまざまな角度から大学における男女共同参画や女性研究者支援について考えるシンポジウムを開催します。

## プログラム

14:00~14:15 主催者挨拶  
(京都府立大学長 渡辺信一郎)

14:15~14:45 特別講演

女性研究者の現状と  
京都府立大学への期待



講師: 山村 康子 氏

(独)科学技術振興機構  
科学技術システム改革事業 プログラム主管

15:30~16:45 パネルディスカッション

京都府立大学における男女共同参画及び  
女性研究者支援の現状と課題

■パネリスト



山下 満智子 氏

大阪ガス株式会社エネルギー、  
文化研究所研究員、  
京都府立大学共同研究員



長島 啓子

本学大学院  
生命環境科学研究科  
助教



小沢修司

■コメンテーター: 山村康子氏、北川慶子氏

■モデレーター: 小沢修司(本学公共政策学部教授)

16:45 ~ 16:55 本学の女性研究者支援事業の紹介

17:00 閉会

17:30 ~ 18:30 懇親会(会費制)

14:45 ~ 15:15 ロールモデル講演  
未来を担う女性研究者への期待



講師: 北川 慶子 氏

佐賀大学男女共同参画推進室室長  
佐賀大学文化教育学部教授

参加ご希望の方は、氏名、所属、連絡先(電話番号、メールアドレス)、懇親会参加の有無を明記し、  
メール、電話にてお申し込みください。

京都府立大学 男女共同参画推進室 TEL: 075-703-5143 メール: danjo@kpu.ac.jp  
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

主催: 京都府立大学男女共同参画推進室 共催: 京都府立大学人権委員会、京都政策研究センター 後援: 京都府(予定)

## シンポジウムアンケート結果

※アンケート回答者：53名

### (1) 性別

①男性	②女性	無回答
14	32	7

### (2) 年代

① 10代	② 20代	③ 30代	④ 40代	⑤ 50代	⑥ 60代	⑦ その他	無回答
0	7	11	9	15	7	2	2

### (3) 所属

#### 本学

①教員	②職員	③学部生	④博士前期課程	⑤博士後期課程	⑥その他
17	16	0	2	1	0

#### 学外

①大学教員・研究者	②大学生・大学院生	③大学職員	④公務員	⑤会社員	⑥その他
5	2	2	3	0	4

(不明 1)

### 1. 今回のシンポジウムの開催を何で知りましたか

①指導教官・教員	②知人・友人	③新聞記事	④ポスター・チラシ	⑤人権委員会研修	⑥その他
7	7	1	8	19	8

(不明 3)

### 2. 基調講演「女性研究者の現状と京都府立大学への期待」(山村康子氏) の内容はいかがでしたか。

①非常に有意義だった	②有意義だった	③ややもの足りない	④もの足りない	無回答
15	30	2	0	6

(理由)

- ・ 女性研究者の離職率の推移は非常に説得力があった。
- ・ 女性研究者の活躍には復職が大事で重視すべきでは。子育て（特に低年齢児での）は必ず、母親不在であってはならないと思うので、人を育て、変わった女性が活躍してほしいと思う。
- ・ 全国的な取り組みの over view を紹介され参考になった。
- ・ 府立大に適用するのは非常に難しいと感じた。
- ・ 採用のポジティブアクションの事例は参考になった。
- ・ 女性研究者の現状について、ある程度の理解が進んだ点。
- ・ ポジティブアクションのことは知らなかつたので、勉強になった点。
- ・ 男性研究者とのバランスについて難問だという認識はやはり重要だと確認できた点。
- ・ 理学や工学分野の女性研究員を増やしていくのはもちろんだと思いますが、女性研究員の多い家政や芸術分野でライフイベントを望まない女性 vs 望む女性の問題も出てくるだろうなと思ってしました。
- ・ 女性研究者支援事業の取り組みの具体例が盛り込まれていたので、現状がある程度把握でき、今後の課題が整理されていたのでわかりやすかった。
- ・ 意識改革の重要性と、そのためのポジティブアクションの有効性について認識できた。
- ・ 他大学のポジティブアクションや政策動向が紹介されていたため。
- ・ 女性研究者の支援がいろいろあることを知りませんでしたし、それらが平成 18 年というごく最近から始まったということも初めて知りました。
- ・ これまでの流れを明確に説明していただけ、よく理解できました。
- ・ 就職を理由になかなか学生が海外に行かない、ということがあります。公費から女性の採用を財政的に支援するという話は興味深かったです。財政的な支援をする財源が確保され、支援に見合った業績によって益を還元すること（女性の採用自体が益なのかもしれません）、そのためにはどのような支援を行っていけばよいか、など考えが進みました。
- ・ 女性の活躍の推進という話になったとき、役職の女性の割合とともに女性研究者の割合が低いことも必ず出る。「女性びいき」という批判も出るが、「びいき」をしないといけないぐらい、女性が弱い立場に置かれてきた状況に問題があると思います。
- ・ 他の事業についてよく理解できた。他の大学の取り組み等について知れたのでよかったです。家事・育児に取り組む男性研究者を支援することは意識啓発になると思う。企業に勤める奥さんがいる男性教員にも支援したい。
- ・ 全国の大学が抱えている課題、そして最先端の男女共同参画に対する取り組みを統計に基づいて分析できた。
- ・ 政策における女性研究者支援の現状がコンパクトにまとめられていた。
- ・ 今後の課題が明確。

4. ロールモデル講演「未来を担う女性研究者への期待」（北川慶子氏）の内容はいかがでしたか。

①非常に有意義だった	②有意義だった	③ややもの足りない	④もの足りない	無回答
14	32	7	0	0

(理由)

- ・ 研究費を取る、心構え、メンターの重要性を若い人に伝えられたと思う
- ・ 佐賀大学の取り組みと多様なロールモデル（演者を含め）の紹介、メンターの重要性を認識できた。
- ・ ロールモデルを目指して努力しようと力が湧いてきました。
- ・ メンター制度の重要性はよく理解できた。
- ・ ロールモデル、メンターの重要性については認識を新たにできた。
- ・ 北川先生のお話とは違いますが、最近話題の小保方さんですがマスコミに取り上げられましたが、表面的な外観などのみ取り上げられて、研究の厳しさの“裏側”を知らないまま、研究職を安易に目指す人が増えては困るなと思っています。
- ・ 研究分野を渡り歩くキャリアを実践する方に出会った。
- ・ ロールモデルの必要性と共に、メンター確保の必要性について認識できた。
- ・ 一番興味がわいたのは、プロジェクトに参加しながら研究を継続してキャリアアップをするという点です。本当に学生を大切にしているのだなと思いました。自身を犠牲にしてしまうと、やはり後に続く人も出なくなり、良いことはないように思います。
- ・ 具体的な支援内容をもっと詳しくお伺いしたかった。
- ・ 介護をポイントにしている点が非常に良かった（男性への広がりの点で）。
- ・ ロールモデルはとても大切だと思います。勤務時間が長い、薄給であることから、なかなか研究者という道を進むことに抵抗を感じる（自信がない）女性学生も多いと思います。かといって、あまり理想的すぎるロールモデルにも、「私はここまで頑張れない」と思ってしまうので、身近な事例があれば良いと思います。
- ・ もうちょっと頑張ろうと思う、自分自身も。メンター制度について少しお話が聞きたかった。
- ・ 就職状況の厳しい昨今において、女性研究者として地位を築いていった経歴は大変学ぶ所多し、でした。



5. パネルディスカッションの内容はいかがでしたか。

①非常に有意義だった	②有意義だった	③ややもの足りない	④もの足りない	無回答
11	29	3	1	9

(理由)

- ・ 長島先生のような現場の声が聴けてよかったです。
- ・ ワークライフバランスの重要性、長島さんのお話は大切(ただ、お父さんの送迎はできないのか、食事の準備や後片付けはできないのか、家事の分担はされてないのか)。他の女性助教の方のお話もほしい。
- ・ 京都府の取り組み(考え方)について、もう少し明確にしてほしい。
- ・ 地域との連携という考え方は重要と思った。
- ・ 家庭を持ち、ご活躍されている研究者の方のお話は非常に“力”になった気がします。「私もできたのだからあなたでもできるわよ。」と言える方がもっと周りに増えていけば良いなと思います。
- ・ 小沢先生のモダレーターがパネリストから多角的な視点で情報を引き出して頂き、面白かった。
- ・ 登壇者の選択が良く、多角的な意見交換がみられた。フロアからも積極的な質問、意見発表があった。
- ・ 長島先生のリアルな体験談はとても参考になりました。
- ・ かつてよく働く女性の話を聞くことができてよかったです。
- ・ アクティブなパネリスト、進行役を配置されたので有意義な討論が聞けました。
- ・ 女性と一言に言っても様々な立場の女性がいるし、社会には男性もいるので、女性への支援の在り方について、多角的なアプローチがあって良かったのではないかと思います。
- ・ それぞれのお立場から率直なご意見をお伺いできて、参考になりました。男性も対象にした支援に発展させていくべき、という意見に共感しました。
- ・ 長島さんの話がリアルで良かった。参考になりました。
- ・ パネルの中での山下さんの話、企業の「本音と建て前」、「制度ができても意識の問題はまだまだ」は重要な指摘と考える。
- ・ 府大の良さ(教員と学生の距離が近いこと)を男女共同参画の推進に生かしていくと思いました。京都市の進める“真の”ワーク・ライフ・バランス(地域とのつながりを重視)にも、地域に身近な府大の強みを生かせると思います。
- ・ ロールモデルとしてはどういう形が理想的であるか。あまりしんどい、しんどい、と言ったロールモデルはどうかと思う。
- ・ お二人の子育てライフの話に共感しながら、その大変さを家族で乗り越えてきたことを伺い、ご苦労を察しながらも本当に素晴らしいと思います。妻と一緒に子育て&仕事に取り組んでいきたいため。
- ・ 地域との連携の重要性を学びました。

6. 本日のシンポジウムに関する感想を自由にお書きください。

- ・ 府大のおかれている状況等が良く分かった。
- ・ 多様な立場の方の話が聞けてよかったです。
- ・ 府大に即した問題が、もう少し掘り下げられればよかったです。そのためには、東先生の話がパネルディスカッションの前にあった方が良かったです。
- ・ 一般企業と大学とでは同列にならないので、そこは論点を整理してほしかった。
- ・ ライフィベントを望まない女性にとっては、「女性研究者」に限定され採用が行われる風潮に疑問やモヤモヤが生まれるのではないかと思いました。
- ・ 長島先生のお話は大変勉強になりました。女性研究者の大変さをよく理解することができました。
- ・ 前向きな内容だった。更に積極的な展開を期待します。
- ・ このような支援活動があるのを知り勉強になりました。同じ女性として興味深いと思います。
- ・ 今後に期待しております。女性研究者の一人として、とても励されました。
- ・ 実態に即した内容で良かった。具体的なお話で、どの内容も理解しやすかったです。「研究」という点で育児や介護など家族の事項と仕事とのバランスのとり方を考える必要性を強く感じた。山下氏の「功を焦るな」という言葉が一番心に残りました。
- ・ パワフルな先輩方のお話を聞けて、勇気づけられました。
- ・ 「女性のための」支援だけでなく、全ての人が仕事と家庭を両立できるよう、社会を改善していくべきというご意見に賛成します。
- ・ ドクターに上がるまでにかかる学費を就職して返せるのか？（奨学金等使っていたら相当な額になると思います）といった疑問、不安はやはり女性の方が大きいかと思います。そういった不安を軽減できるような案をもっとアピールしていただけると進学を選択できる女学生も増えるのではないでしょうか（男性もそういう不安はあるでしょうが…）。
- ・ 活躍する女性の活き活きしたお話を聞けて、ちょっと元気がもらいました。
- ・ 立派な会だと思いました。しかし、何か足りない、と感じました。
- ・ 最後に京都府立大の具体的な取り組み内容をお伺いできて、大変参考になりました。
- ・ 学長が挨拶でされた「男女共同参画は総論賛成、各論反対となりやすい」という言葉が印象的でした。
- ・ 山下さんのお話は個人的に励みになった。正にロールモデルに相応しいと思う人柄だと思う。
- ・ モデレーター、コメンテーター、パネリストみなさまがそれぞれのご経験とご研究から導き出された率直なお話はとても興味深い内容でした。非常に満足しております。

### 3-2 ホームページの開設

男女共同参画推進室の取組を広く発信するため、3月にホームページを開設した。

The screenshot shows the homepage of the Kyoto Prefectural University Gender Equality Office. At the top, there is a navigation bar with links to Home, Standalone Support, Career Support, Consultation Window, Information Exchange, Activity Report, and about the Promotion Room. Below the navigation bar, there are links for Female Researchers, Students/Postdocs, Interns, Males, and Staff. The main banner features a grayscale photograph of people walking on a campus path, overlaid with the text "多様性のある ゆたかな大学へ" (A university with diversity). On the left side, there is a sidebar for "New Information" with links to various news items, events, and notices. On the right side, there are boxes for "Consultation Window" (with a link to the consultation service), the university's logo, and information about the Kyoto府 KYO's akibono project.

### 3-3 男女共同参画推進室 リーフレットの発行

男女共同参画推進室の取組を広く発信するため、平成26年2月にリーフレットを発行した。

### 3-4 男女共同参画推進室 ニュースレターの発行

平成26年1月にニュースレター第1号を発行した。

### 3-5 情報収集・渉外・広報活動

#### 参加・訪問

女性研究者支援事業の情報収集や学内外の関係機関への広報周知、アウトリーチを行った。

- ・ 京都工芸繊維大学男女共同参画推進センター主催第2回セミナー「仕事と育児・介護の両立 カジダン・イクメン・ケアメンー体験しています！」、第3回セミナー「理系の仕事とキャリアデザイン—経験者に聞く！」セミナー参加（9/19、10/18）
- ・ 京都工芸繊維大学男女共同参画推進センター訪問（10/25、1/14）
- ・ 京都大学未来フォーラム「ジェンダー研究のススメ」参加（11/6）
- ・ 文部科学省主催女性研究者活動支援事業シンポジウム参加（11/11）
- ・ 女性と仕事研究所主催「ワークライフバランスメッセ in 大阪」参加（11/15）
- ・ 第3回4大学連携研究フォーラム「ヘルスサイエンスの総合化：輝いて美しく！—女性研究者へのメッセージ—」参加（11/15）
- ・ 京都府男女共同参画課訪問（12/2）
- ・ 本学キャリア入門講座「男女共同参画の視点からの社会の現状と課題」講義参加（12/9）
- ・ 京都工芸繊維大学創造連携センター訪問（12/10）
- ・ 名古屋市立大学男女共同参画推進総括シンポジウム参加（12/13）
- ・ 京都新聞社本社訪問（2/14）
- ・ 京都学園大学「京都女性企業家俱楽部」創設記念 パネルディスカッション参加（2/15）
- ・ 京都大学女性研究者支援センター訪問（2/17）
- ・ 岐阜大学男女共同参画推進室訪問（2/21）
- ・ 名古屋市男女平等参画推進センター指定管理者 特定非営利活動法人参画プラネット主催「いまこそ、中部から発信！「働く女性の交流会」」参加（2/21）

#### 来室

- ・ JST 視察（12/16）
- ・ 京都府男女共同参画課（2/5）

#### 4. 女性研究者の採用人数及び上位職女性研究者の増加に向けた取組

##### 総 括

東 あかね  
男女共同参画推進委員会委員長  
男女共同参画推進室長  
生命環境科学研究所教授

公募の際、女性研究者の在職比率を高めるための方途として、教員離職者の半数を女性研究者の採用とすることにより目標を達成する計画を掲げたところであるが、女性研究者自体が少ない分野については、女性の数よりも研究業績による評価を優先すべきである等の意見があったため、教員離職者の半数を女性研究者とすることについて合意を得ることはできなかった。

しかし、生命環境科学研究所環境科学専攻の平成26年10月採用人事の公募要領について、本学は男女共同参画推進に積極的に取り組み、女性教員の増加をめざしていることを記載する旨、教育研究評議会において承認を得ることができ、一歩一歩、学内の意識改革を前進させているところである。

今後、①女性教員採用した場合に、インセンティブを与えること、②女性が1人の学科をなくすこと（平成26年3月現在、生命分子化学科、農学生命科学科、環境・情報科学科の3学科）、③女性管理職（平成26年3月現在、8名のうち2名）を増やすため、更に管理職の意識改革を積極的に推進していくこととする。

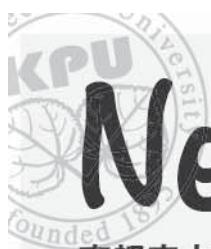
# IV 資料

ニュースレター 第1号

男女共同参画推進室リーフレット

卒業生の就業状況調査及び調査票





# Newsletter

京都府立大学 男女共同参画推進室 ニュースレター

Vol.

01

2014.01

## 男女共同参画社会の形成で 地域社会の発展への貢献を!



本学が文部科学省科学技術人材育成補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、男女共同参画推進室を中心に、優秀な女性研究者を育成し、ひいては地域社会の発展に貢献することを目標に事業を展開することになりました。

女性研究者を取り巻く環境整備、研究者支援、若手研究者のキャリアアップの推進に精一杯取り組みます。

皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

### ごあいさつ

京都府立大学学長 渡辺 信一郎



### 男女共同参画推進室の 開設にあたって

京都府立大学副学長・男女共同参画推進室長  
東 あかね



京都府立大学は、これまで「堅実」な校風をモットーに教育研究を進めてきました。本学の前身のひとつは、1927年(昭和2年)創立の京都府立女子専門学校です。「桂女専」の名で府民に親しまれた本学は、京都府における女子高等教育の推進にあたって先駆的役割をはたし、大学となつた今日に至るまで、堅実な女性の社会進出に大きく貢献してきました。このたび文部科学省科学技術人材育成補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、この校風を一層展開する機会を手にすことができました。

本事業の目標は、文学・公共政策・生命環境科学分野において優秀な女性研究者を育成し、地域社会の発展に貢献するところにあります。今後は、男女共同参画推進室を中心に、京都府、京都府立医科大学、府立大学同窓会などの関係機関や組織と連携して、本学の女性教員・若手研究者・卒業生が相互に支えあう女性ネットワークを構築し、男女共同参画社会の形成に向けて、様々な事業を推進してまいります。皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

7年後の2020年に東京オリンピックが開催されることに決まりました。1964年の東京オリンピックでは「東洋の魔女」と呼ばれた女子バレーの金メダルに日本中が沸きました。その後、マラソン、重量挙げ、レスリングなど、生理学的には女性に向いたと思われる競技においても、日本人女性の活躍が続いている。さらに平均寿命は35年間連続で世界一です。

しかし、世界経済フォーラムが発表した2013年版「男女格差報告」では、日本は136カ国中105位と低く、世界一健康な日本人女性の力が社会で十分に発揮できていません。

1945年、大学が男女共学制が実施されて68年が経過してなお、本学教員の女性割合は16%。最近は1年に1%ずつ上昇していますので、この調子でいけば人口割合と同じ50%になるのは34年後の2047年。それは、あまりにも遠すぎます。

事業採択を契機に全学の智慧を結集して、女性研究者支援から、教職員の家庭生活と仕事の両立、協働などに取組み、学生が学びやすく、教職員・男女が共に働きやすい大学にしていきましょう。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業(一般型)

# 多様性のある ゆたかな大学へ

昨年10月、男女共同参画推進委員会が設置され委員長に東副学長が、委員に8名の方が就任されました。

## 男女共同参画推進は 大学の使命です

文学部長 野口 祐子 教授

女性も男性も同等に活躍できる社会が理想ですが、日本の社会はまだまだ理想からほど遠い状況です。男性の働き方・考え方が主流となっている社会を変えていくために、大学がなすべきことはたくさんあります。このたび本学でも男女共同参画を推進する環境が整いました。本学ではまず若手女性研究者の育成に重点を置いた事業を開します。啓発イベント・ニュースレターの発行などの身近な啓発活動にも本格的に取り組みます。教職員のみならず、学生の皆さんにも男女共同参画の意義を理解して社会人になってもらうために、活動を積極的に発信していきます。大学が社会を変える力となれるよう、理想の実現に向けて、改めて一歩を踏み出しましょう。

## 職場・家庭・地域の仕事の両立が 可能な社会を作る一助に

文学部 川分 圭子 教授

府大に勤務する一方、皆さんのご厚情の中で二人の娘を育ててきましたが、おかげさまで長女は今年成人しました。この場を借りて御礼申し上げます。今も多くの府大の教職員の方々が、府大の業務を果たされる一方で、育児、介護、自治会の重責など表に出ない無償のお仕事もこなしておられると思います。本委員会の活動が、誰にとっても職場・家庭・地域の仕事の両立が可能な社会を作る一助になればと祈念しております。どうかよろしくお願いします。

## 委員としての抱負

公共政策学部長 吉岡 真佐樹 教授

学部長として、委員会のメンバーとなりました。本学にとって、男女共同参画推進を目的としてまとまった予算を獲得するのは初めてのことだと思います。本学の状況を十分に把握しながら、予算を適切にまた有意義に活用できるよう努力したいと思います。

同時にこれを機会に、学部としても個人としても、この課題の前進のために現在求められているものは何か、そして今後必要とされることとは何か、をより広い視野から議論し検討したいと思っています。どうかよろしくお願いします。

## 未来につながる想い出

公共政策学部 小沢 修司 教授

本学で「女性研究者支援事業」が開始されました。私自身、本学で女子短期大学部生活経済科から教育研究に従事するようになりましたが、赴任当時、上の子は1歳6ヶ月で、住んでいた大津市の三井寺町からオンブリで長等商店街を通り朝日ヶ丘保育園に送りとどけ急いで大学に向かった情景が思い出されてきました。また、勤めて3年半後には下の子が生まれ、ラマーズ法で出産に立ち会った情景と感動を身振り手振り、講義室の壇上に座り込んで学生たちに説明したことでも昨日のように思い出されます。その頃には大津市の唐崎に移り住んでいたのですが、会議で保育園のお迎えが間に合わなくなると、大学から山中越えでタクシーを飛ばしたこともしょっちゅうでした。出産や育児などライフイベントと教育研究との両立が支障なくできるよう男性女性研究者を支援していきたいと思います。

## 大学は理科教育の終点として 男女共同参画の意識をもった 働きかけを

生命環境科学研究科長 牛田 一成 教授

生命環境科学研究科長として委員会のメンバーになりました。日本に限ったことではありませんが、理系における女性の進出は、生物系に偏りがちです。重化学工業や機械工業などでは、世界的な大企業でも、女性技術者の確保に苦労されていると聞きます。こうした状況は大学だけの努力で改善されるとは思えませんが、初等中等教育のなかで女性の理工系進出に対する芽を育てるのであれば、大学は理科教育の終点として男女共同参画の意識を持って上流に働きかける必要があるのかもしれません。



## 研究者と女性

生命環境科学研究所 高野 和文 教授

私が男女共同参画に関与するようになったきっかけが二つあります。一つは、大学院時代の女性の先輩が、当時、イキイキとバリバリ研究をされていました。それに憧れて私も研究の道に進んだ面もあります。しかし、三十半ばのときに、男の価値観の中で疲れたと第一線から退かれました。もう一つは、前任校で指導していた女子院生からの進路相談でしたが、日本はまだまだ男社会で女性は+aの苦労があると回答しました。いや、そうしか回答できませんでした。今彼女は海外で活躍しています。府大には多くの女子学生・院生がいます。彼らが日本でも輝いて研究できることを期待して、何ができるかわかりませんが、少しでもお役に立てればと思います。

## 学生、院生、研究者の ネットワークづくり

生命環境科学研究所 リントウルオト 正美 准教授

委員会では大学院生、PD、OD、若い研究者の支援する「あおいプロジェクト」の担当をします。大学院や若い研究者としての将来や研究に対する悩みなど女性に限ったことではないのですが、女性だからこそ感じる不安、悩みもあることだと思います。研究室に所属しているとどうしても世界が狭くなってしまいがちです。同じ境遇にいるもの同士で年齢や学年に関係のないネットワークを作り、さまざまな情報の共有や精神的支えとなるような人の‘輪’を作っていくたいと思っております。

## 男女共同参画推進委員会委員 としての抱負

事務局長 稲村 智史

平成25年度女性研究者研究活動支援事業の採択を受け、本学の男女共同参画の取組が本格的に推進されることになり、委員として指名を受けました。私の場合、長年京都府の行政に携わり、比較的問題意識は高いとは思いますが、造詣が深いという訳ではありません。京都府等の行政との調整や事務局の代表として取組の円滑な推進をサポートできればと思っています。また、今回は女性研究者支援が中心ですが、本学は事務職員等も女性が大変多い職場もありますので、取組が全学に拡大していくよう尽力したいと考えています。

## 多様性を活かしたしなやかな社会を

男女共同参画推進室コーディネーター 鈴木 晓子

この度、ご縁を頂き、着任いたしました。行政機関、NPO、シンクタンクを経て、本学が4つ目の職場になります。人口減少社会における持続可能な地域社会づくりをテーマに、移民政策やダイバーシティに関する政策提言を行ったり、CSRを切り口に企業と地域社会をつなぐ事業に関わってきました。

男女共同参画というと、とかく堅苦しく考えがちですが、男性も女性も、今までの固定観念にとらわれない生き方が選択でき、能力が発揮できる職場で働くことができる、そんなしなやかな社会づくりに、女性研究者研究活動支援事業を通じて関わることができることを楽しみにしています。よろしくお願いします。

### 活動報告

- 第1回あおいサロンを開催。

■テーマ 「キャリアデザインと仕事観」—府立大OGが語る、スマートワークとは—  
■スピーカー 田畠真理さん 大阪ガス(株)人事部ダイバーシティ推進チームマネジャー  
■日時 2014年2月5日(水)

※「あおいサロン」は先輩に出会い将来の働き方・生き方のヒントを得る少人数のサロンで毎回ゲストをお迎えします。

- 研究支援員制度が始まりました。

平成26年度も募集を行います。

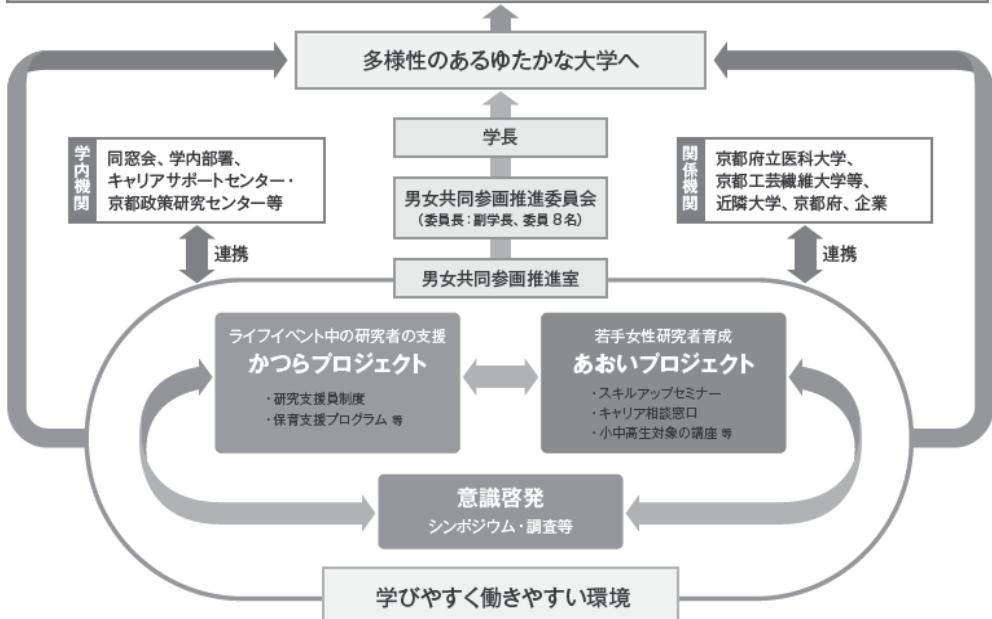
- 保育支援プログラムを開始しています。

■京都府立大学卒業生・修了生就業状況調査のご協力ありがとうございました。



## 事業概要

研究者・若手研究者・学生・卒業生が支えあうネットワークづくりで、  
地域社会の発展への貢献



3つの柱を通して、性別を問わず、研究しやすく働きやすい、多様性を認め合うゆたかな大学をめざします。

### 研究者支援事業 (かつらプロジェクト)

子育てや介護等のライフイベント中の研究者を対象に、両立支援を行います。

### 若手研究者支援事業 (あおいプロジェクト)

若手女性研究者を対象に、キャリア形成の支援を行います。

### 意識啓発活動

地域社会との連携により男女共同参画社会の実現に向けた啓発活動を行います。

## お知らせ

京都府立大学男女共同参画推進室開設記念  
キックオフシンポジウムを開催します。

**テーマ** 大学における男女共同参画・女性研究者支援の推進に向けて  
**日時** 2014年2月27日(木)14:00~17:00  
**場所** 本学 大学会館2階多目的ホール  
**内容**

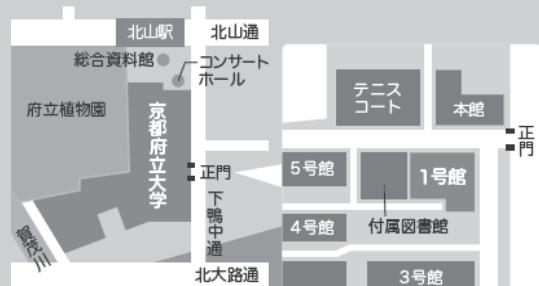
1. 講演  
山村康子氏 (独)科学技術振興機構科学技術システム改革事業 po主管  
北川慶子氏 佐賀大学文化教育学部教授、男女共同参画推進室室長
2. パネルディスカッション  
山下満智子氏 大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所研究員  
長島啓子 本学大学院生命環境科学研究科助教  
小沢修司 本学公共政策学部教授

### 編集・発行

### 京都府立大学 男女共同参画推進室

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5(1号館3階)

TEL: 075-703-5143 E-mail: danjo@kpu.ac.jp



京都府公立大学法人 京都府立大学  
男女共同参画推進室 ご案内

京都府立大学  
総合資料館 コンサルートホール  
北山駅  
北山通  
下鴨通  
洛北高校  
正門  
下鴨中通  
北大路通  
テニスコート  
本館  
5号館  
1号館  
4号館  
附属図書館  
府立植物園  
北山川  
男女共同参画推進室  
Newsletter  
セミナーの開催  
ホームページでの情報発信  
多様性のあるやたか大学へ

京都府公立大学法人 京都府立大学  
男女共同参画推進室  
Kyoto Prefectural University Gender Equality Office  
TEL : 075-703-5143 FAX : 075-703-5149  
E-mail : danjo@kpu.ac.jp  
HP : [www.kpu-sankaku.jp](http://www.kpu-sankaku.jp)

〒606-8522  
京都市左京区下鴨半木町1-5(1号館1310号室)  
TEL : 075-703-5143 FAX : 075-703-5149  
E-mail : danjo@kpu.ac.jp  
HP : [www.kpu-sankaku.jp](http://www.kpu-sankaku.jp)

※地下鉄烏丸線「北山」駅下車1番出口から南へ徒歩10分  
(京都駅から地下鉄烏丸線で約30分)  
※市バス204、205、206、1、208系統「府立大学前」下車 北へ徒歩5分  
※京都バス32、34、35系統「府立大学前」下車 北へ徒歩5分

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
女性研究者研究活動支援事業(一般型)

## 男女共同参画推進室の紹介

### 取り組み



### 男女共同参画推進室の 具体的な活動

女性研究者の採用・登用・育成と、教職員の仕事と生活の調和(ワークライフバランス)を推進し、学内外との連携・協力のもと、男女共同参画の推進を通じた地域社会への貢献を図ります。

研究者としての  
キャリアと育児・介護等を  
両立させたい

相談窓口や  
ネットワークが  
(ほしい)

性別に関係なく、  
安心して働ける職場って  
何だろう?

事業を通じて、一緒に考えてみませんか?



京都府立大学は、これまで「堅実」な校風をモットーに教育研究を進めてきました。本学の前身のひとつは、1927年(昭和2年)創立の京都府立女子専門学校です。「桂女專」の名で府民に親しまれた本学は、京都府における女子高等教育の推進にあたって先駆的役割をはたし、大学となつた今日に至るまで、堅実な女性の社会進出に大きく貢献してきました。このたび文部科学省科学技術人材育成補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、この校風を一層展開する機会を手にすることができました。

本事業の目標は、文学・公共政策・生命環境科学分野において優秀な女性研究者を育成し、地域社会の発展に貢献することにあります。今後は、男女共同参画推進室を中心に、京都府、京都府立医科大学、府立大学同窓会などの関係機関や組織と連携して、本学の女性教員・若手研究者・卒業生が相互に支えあう女性ネットワークを構築し、男女共同参画社会の形成に向けて、様々な事業を推進してまいります。皆さまのご理解とご協力をお願い申上げます。

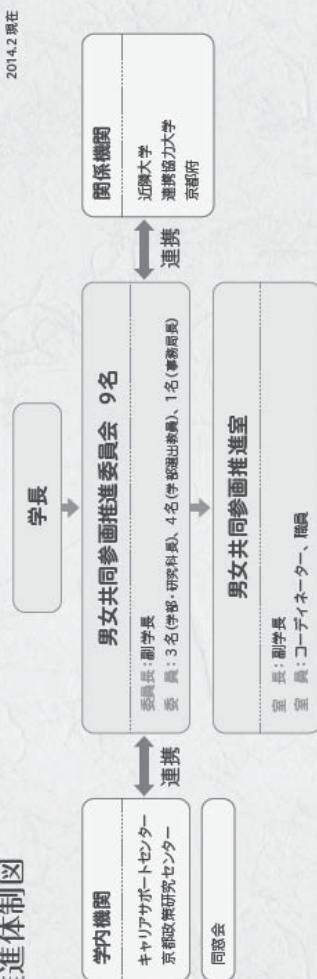


京都府立大学学長  
渡辺 信一郎

環境整備  
研究ヒライベント(子育て・介護等)との両立支援  
■研究支援員制度  
■保育支援プログラム  
■京都府立医科大学病児保育室「こがも」利用制度

若手研究者のキャリア形成支援  
■相談窓口の開設  
■女性研究者交流会の開催

意識啓発  
公立大学であることを活かし、地域と連携した意識啓発を行います。  
■シンポジウム・セミナー等の開催  
■ホームページ・ニュースレターによる情報発信



卒業生の就業状況調査 依頼文及び調査票

平成25年11月吉日

平成9年度、14年度、19年度 卒業生各位

卒業後の就業状況調査のご協力のお願い

京都府立大学 学長 渡辺信一郎

秋冷の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、京都府立大学では、性別を問わず、本学で学び働く研究者・職員・学生等が各々の立場でその能力を最大限に発揮できるよう環境整備の推進に努めているところです。

このたび、本学では平成25年度文部科学省「女性研究者研究活動支援事業」の選定を受け、男女共同参画推進委員会を設置し、学内外の男女共同参画の取り組みを進めているところです。その事業の一環として、卒業生・修了生の卒業後の就業状況を明らかにし、今後の研究者等の支援の方策や、卒業生・修了生との連携の展開について検討するため、京都府立大学同窓会のご協力のもと、男女を問わず本学の卒業生・修了生の就業状況調査を行うこととしました。

今回は学部卒業後5年、10年、15年の方を対象とした調査を行います。ご多用中恐縮ですが、趣旨をご理解いただき、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

- 平成25年12月20日(金)までに、同封の返信用封筒にて返信していただきますようお願いいたします。
- 調査結果につきましては集計結果のみを利用いたしますので個人が特定されることはありません。
- 本調査報告は、後日、報告書として刊行予定です。

問い合わせ	京都府立大学男女共同参画推進室 室長 東あかね (担当: 鈴木) 〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5 電話 075-703-5143 FAX 075-703-5149 E-mail danjo@kpu.ac.jp
協力機関	京都府立大学同窓会 電話 075-712-4750 (火、金) 10:00~16:00

平成 25 年 11 月 吉日

各位

京都府立大学同窓会会长

北川壽一

### 卒業生・修了生就業状況調査への協力依頼

晩秋の候、皆様方には、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は同窓会の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、現在、私どもの母校であります京都府立大学におきましては、男女が対等な構成員として、教育、研究、地域貢献及び大学運営を行うことにより、男女共同参画社会の実現に貢献することを目指した取り組みが積極的になされております。

そして、今回、こうした活動をさらに充実させていくための資料作成を目的として、京都府立大学男女共同参画推進委員会が主体となって「本学卒業生・修了生の就業状況についてのアンケート調査」を行いたい。については、同窓会にもそのアンケート用紙送付についてご協力いただけないかとのお申し出をいただきました。

皆様方の就労状況の実態を明らかにさせていただくことによって、卒業生と研究者・職員等のネットワークを創造し、さらに組織としての緊密な連携を図り、それぞれの能力を最大限に発揮できるような環境整備にも取り組んでいきたいとのことです。

同窓会では、こうしたお申し出に対し、先の理事会で慎重に検討させていただきました結果、この調査が今後の学生教育ならびに卒業生にも大変役に立つ調査であることから、喜んでご協力させていただくこととなりました。

皆様方も時節柄大変お忙しいとは存じますが、以上の趣旨を十分にご理解いただきまして、是非とも本アンケート調査にご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

末筆ではございますが、時節柄心身ともに大切にして頂き、益々のご健勝・ご多幸を得られますよう心よりお祈り申し上げます。

## 京都府立大学卒業生・修了生 就業状況調査

あなたの属性等についてお伺いします

あてはまる数字を選択して右欄に記入してください。

### Q1-1 性別

1. 男性      2. 女性

Q1-1

### Q1-2 年齢

1. 29歳以下    2. 30~39歳    3. 40~49歳    4. 50歳以上

Q1-2

### Q1-3 学部・短期大学部卒業年度

1. 平成9年度    2. 平成14年度    3. 平成19年度

Q1-3

### Q1-4 在学時の学部・研究科

1. 農学部・農学研究科    2. 人間環境学部・人間環境科学研究科  
2. 文学部・文学研究科    4. 福祉社会学部・福祉社会学研究科  
5. 女子短期大学部

Q1-4

### Q1-5 本学で取得した最終学位

1. 学士（大学卒業）・準学士    2. 修士    3. 博士

Q1-5

### Q1-6 お子さまはいらっしゃいますか。（平成25年11月1日現在）

1. いない    2. いる

Q1-6

### Q1-7 お子さまがいらっしゃる方に伺います。お子さまの人数と年齢を教えてください。

(平成25年11月1日現在)

第1子		歳
第2子		歳
第3子		歳
第4子		歳
第5子		歳

### Q1-8 現在、介護を必要とする家族はおられますか。（同居・別居は問わない）

1. いない    2. 1名    3. 2名    4. 3名以上

Q1-8

### Q1-9 現在（平成25年11月1日現在）の居住地はどちらですか。

1. 京都市内    2. 京都府内    3. 関西圏    4. 首都圏  
5. 関西圏・首都圏以外    6. 海外

Q1-9

**卒業・修了直後の仕事についてお伺いします**

**Q2-1 卒業・修了直後の進路の形態を、次の項目から1つ選んでください。**

1. 正規社員・正規職員
2. 派遣社員、契約社員、嘱託社員
3. 非常勤、パートタイム、アルバイト
4. 自営・家族従業
5. 進学
6. 非就職（家事手伝い等）
7. その他（ ）

**Q2-1**

**Q2-2 Q2-1で「1 正規社員・正規職員」、「2 派遣社員、契約社員、嘱託社員」**

**「3 非常勤、パートタイム、アルバイト」を選ばれた方にお伺いします。**

**その時の職業について1つ選んでください。**

1. 研究者・技術者（民間企業、大学での研究者・技術者を含む）
2. 教員（小・中・高校・専門学校・その他教育機関等）
3. その他の専門職（具体的に： ）
4. 管理的職業（民間企業、公務員の課長職以上、会社役員など）
5. 事務的職業（民間企業、公務員の一般事務員、秘書など）
6. 販売的職業（民間企業の営業・販売職、小売店経営、保険外交員など）
7. 保安・サービス的職業（警察官、自衛官、美容師など）
8. 農林漁業
9. その他（具体的に： ）

**Q2-2**

**Q2-3 そこではどのような事業を営んでいましたか。あてはまる番号1つを選んでください。**

- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| 1. 農林漁業        | 9. 新聞・放送・出版業、広告業、映画製作 |
| 2. 鉱業          | 10. 情報・通信             |
| 3. 建設業         | 11. 医療・福祉             |
| 4. 製造業         | 12. 教育・研究             |
| 5. 電気・ガス・水道業   | 13. 法律・会計             |
| 6. 運輸・通信業      | 14. 公務                |
| 7. 卸売・小売業、飲食店  | 15. その他（ ）            |
| 8. 金融・保険業、不動産業 |                       |

**Q2-3**

**Q2-4** Q2-1で卒業・修了直後に「1 正規社員・正規職員」「2 派遣社員、契約社員、嘱託社員」「3 非常勤、パートタイム、アルバイト」を選ばれた方にお伺いします。あなたはその仕事を現在も同じ勤務先で続けていますか。あてはまる番号1つを選んでください。

1. やめた（転職や中断再就職を含む）
2. 現在まで同じ仕事を続けているが、勤務先は変わった
3. 現在まで同じ仕事を同じ勤務先で続けている

Q2-4

**Q3-1** Q2-4で「1 やめた」を選ばれた方にお伺いします。あなたはその仕事を何年間続けましたか。

--	--

 年

**Q3-2** その仕事をやめた理由は何ですか。2つまで選んでください。

- |              |                    |
|--------------|--------------------|
| 1. 転職        | 8. 労働条件が厳しかったから    |
| 2. 結婚        | 9. 事業所の都合（人員整理・倒産） |
| 3. 妊娠・出産・育児  | 10. キャリアアップのため     |
| 4. 配偶者の転勤    | 11. 経済的理由          |
| 5. 家族の介護     | 12. 職場の人間関係のため     |
| 6. 自分自身の健康問題 | 13. その他(具体的に: )    |
| 7. 家族の反対     |                    |

Q3-2

**Q4-1** 今まで同じ仕事を続けている方にお伺いします。これまでに、仕事をやめようと思ったことがありますか。当てはまる番号1つを選んでください

1. ある
2. ない
3. わからない

Q4-1

**Q4-2** Q4-1で「1 仕事をやめようと思ったことがある」を選ばれた方にお伺いします。仕事をやめようと思った理由は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

- |              |                    |
|--------------|--------------------|
| 1. 転職        | 8. 労働条件が厳しかったから    |
| 2. 結婚        | 9. 事業所の都合（人員整理・倒産） |
| 3. 妊娠・出産・育児  | 10. キャリアアップのため     |
| 4. 配偶者の転勤    | 11. 経済的理由          |
| 5. 家族の介護     | 12. 職場の人間関係のため     |
| 6. 自分自身の健康問題 | 13. その他(具体的に: )    |
| 7. 家族の反対     |                    |

Q4-2

現在の仕事についてお伺いします

Q5-1 現在の仕事の形態について、あてはまる番号1つを選んでください。

1. 正規社員・正規職員
2. 派遣社員、契約社員、嘱託社員
3. 非常勤、パートタイム、アルバイト
4. 自営・家族従業
5. 留学中、大学・大学院・専門学校等在学中
6. 収入を伴う仕事にはついていない（家事手伝い、専業主婦（夫）等）
7. その他（ ）

Q5-1

Q5-2 Q5-1で「1 正規社員・正規職員」、「2 派遣社員、契約社員、嘱託社員」「3 非常勤、パートタイム、アルバイト」を選ばれた方にお伺いします。

現在の職業について、あてはまる番号1つを選んでください。

（複数の仕事を持っている場合はその中でもっとも収入の多い仕事を選んでください）。

1. 研究者・技術者（民間企業、大学での研究者・技術者を含む）
2. 教員（小・中・高校・専門学校・その他教育機関等）
3. その他の専門職
4. 管理的職業（民間企業、公務員の課長職以上、会社役員など）
5. 事務的職業（民間企業、公務員の一般事務員、秘書など）
6. 販売的職業（民間企業の営業・販売職、小売店経営、保険外交員など）
7. 保安・サービス的職業（警察官、自衛官、美容師など）
8. 農林漁業
9. その他（具体的に： ）

Q5-2

Q5-3 そこではどのような事業を営んでいますか。あてはまる番号1つを選んでください。

- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| 1. 農林漁業        | 9. 新聞・放送・出版業、広告業、映画製作 |
| 2. 鉱業          | 10. 情報・通信             |
| 3. 建設業         | 11. 医療・福祉             |
| 4. 製造業         | 12. 教育・研究             |
| 5. 電気・ガス・水道業   | 13. 法律・会計             |
| 6. 運輸・通信業      | 14. 公務                |
| 7. 卸売・小売業、飲食店  | 15. その他（ ）            |
| 8. 金融・保険業、不動産業 |                       |

Q5-3

Q5-4 従業員数は勤務先全体で何人ぐらいですか。あてはまる番号1つを選んでください。(事業所単位ではなく、会社あるいはそれに相当する組織全体でお答えください。)

- |              |              |          |
|--------------|--------------|----------|
| 1. 1～29人     | 4. 300人～499人 | 7. わからない |
| 2. 30人～99人   | 5. 500人～999人 |          |
| 3. 100人～299人 | 6. 1000人以上   |          |

Q5-4

Q6-1 Q5-1で「6 収入を伴う仕事にはついていない」を選ばれた方にお伺いします。

あなたが現在、働いていない理由は何ですか。あてはまる番号2つを選んでください。

- |                 |                      |
|-----------------|----------------------|
| 1. 経済的な必要性がない   | 7. 適職が見つからない         |
| 2. 配偶者の仕事の都合上   | 8. 就職(復職・再就職)への自信がない |
| 3. 再就職の活動をしている  | 9. 自分自身の健康問題         |
| 4. 家事や育児に専念している | 10. 配偶者や家族の反対        |
| 5. 介護に専念している    | 11. その他( )           |
| 6. 自分の時間を持ちたい   |                      |

Q6-1

Q6-2 あなたは今後、収入をともなう仕事をしたいと考えていますか。あてはまる番号1つを選んでください。

- |                 |      |
|-----------------|------|
| 1. そう思う         | Q6-2 |
| 2. どちらかといえばそう思う |      |
| 3. あまりそうは思わない   |      |
| 4. そう思わない       |      |

Q6-3 Q6-2で「1 そう思う」、「2 どちらかといえばそう思う」と選ばれた方にお伺いします。

仕事を決める際に重視する項目は何ですか。あてはまる番号2つを選んでください。

- |                                  |      |
|----------------------------------|------|
| 1. 収入・給与                         | Q6-3 |
| 2. 勤務地                           |      |
| 3. 勤務時間や柔軟な働き方(働きやすさや休暇の取得のしやすさ) |      |
| 4. 福利厚生                          |      |
| 5. 事業所の規模や知名度                    |      |
| 6. 事業所の成長性                       |      |
| 7. 事業所の安定性                       |      |
| 8. 自分の経験や資格がより活かせる               |      |
| 9. 仕事のやりがい                       |      |
| 10. その他(具体的に )                   |      |

**Q7 仕事と家庭を両立して仕事を続けていくために、必要だと考えられることを3つまで選択してください。**

1. 自身の考え方や時間の使い方の工夫
2. 短時間勤務制度等、ライフサイクルに沿った柔軟な働き方
3. キャリアが途切れないための復職支援やキャリア形成のプログラム
4. 会社や職場での上司の理解
5. 家族や配偶者の理解
6. 休職中の社員・職員の代替要員の措置
7. 育児、介護中ではない社員・職員への配慮
8. 両立支援のための情報提供や相談窓口
9. 保育園等の待機園児の解消
10. 病児・病後児保育サービス
11. 学童保育の充実
12. 個人又は家庭の経済力
13. 子育て、介護、家事援助のための費用の助成
14. ひとり親（シングルマザー・シングルファーザー）への支援
15. その他（具体的に )

Q7

**Q8 「仕事をやめようと思ったことがあるが、今まで同じ仕事を続けている」と回答された方に  
お伺いします。仕事を続けられた理由をお書きください。**

**Q9 府立大学の学生に仕事について、アドバイスするがありましたら、ご記入ください。**

お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

## 本学における女性研究者・学生に関わる基礎データ

京都府立大学は 1895 (明治 28) 年創立の京都府簡易農学校と 1927 (昭和 2) 年創立の京都府立女子専門学校を母体として発足し、数度の再編を経て、現在は文学部、公共政策学部、生命環境科学研究所からなる京都府内唯一の公立総合大学である。

### 大学の概要

学部	文学部	公共政策学部	生命環境学部
大学院研究科	文学研究科	公共政策学研究科	生命環境科学研究所
常勤教員数	156 名 (女性 26 名 女性教員比率 16.7%)		
正規職員数	67 名 (女性 25 名 女性職員比率 37.3%)		
学生数	学部生 大学院生	1,838 名 325 名	(女性 1,099 名 女性比率 59.8%) (女性 165 名 女性比率 50.4%)

学生数は平成 25 年 5 月 1 日現在、その他は平成 25 年 4 月 1 日現在の数値

### 本学の歴史と男女共同参画の歩み

1895 年	京都府簡易農学校
1927 年	京都府立女子専門学校 (文家政学部)
1949 年	西京大学 (男女共学開始)
1951 年	女子短期大学部を併設
1971 年	女性図書館長 (教員) 就任
1959 年	京都府立大学 に改称 (文学部・農学部・家政学部)
1998 年	女子短期大学部を廃止
2000 年	セクシャルハラスメント防止委員会の設置
2008 年	公立大学法人化 (文学部・公共政策学部・生命環境科学研究所) 京都府立医科大学と同一法人下に入る
2010 年 4 月	女性教務部長 (教員)、女性学生部長 (教員) 就任
2012 年 4 月	女性副学長 (教員)、女性文学部長 (教員) 就任
2013 年 1 月	男女共同参画推進準備委員会の設置
2013 年 5 月	教員対象「男女共同参画推進意識調査」の実施
2013 年 9 月	文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業 (一般型) 採択
2013 年 10 月	男女共同参画推進委員会の設置
2013 年 10 月	男女共同参画推進室の開設・コーディネーター着任

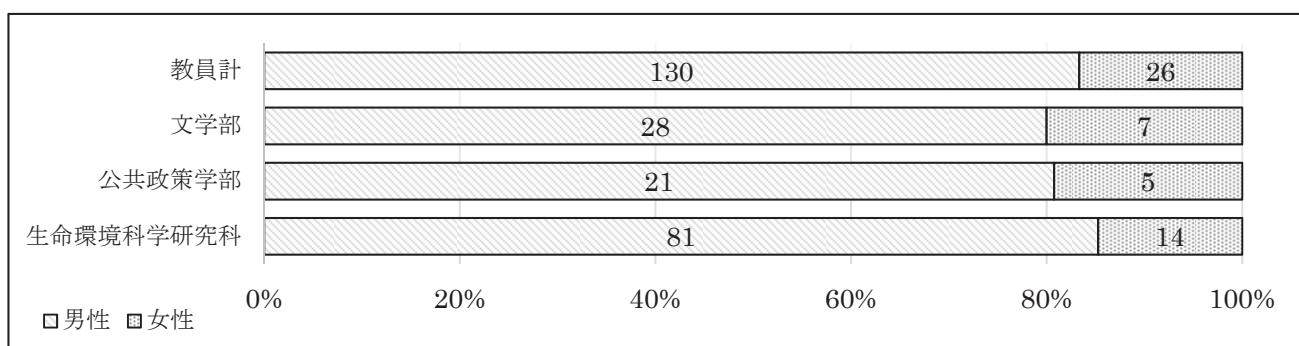
## 京都府立大学における教員及び学生数の推移（男女別）

### 教員の人数及び男女比率

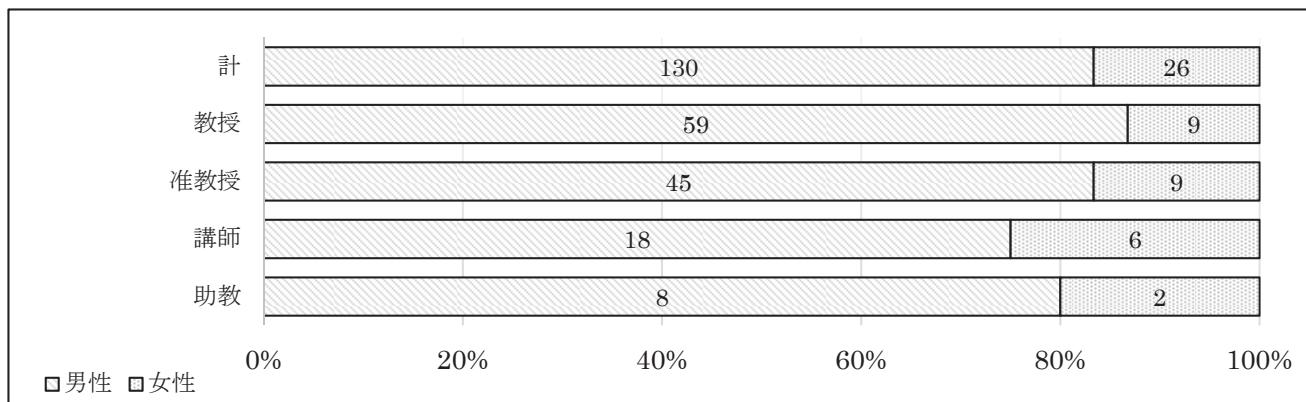
平成 25 年 4 月 1 日現在

所属	教授			准教授			講師			助教			計			女性割合(%)
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	
文学部	18	15	3	11	8	3	6	5	1	0	0	0	35	28	7	20.0%
公共政策学部	10	9	1	13	10	3	3	2	1	0	0	0	26	21	5	19.2%
生命環境科学研究所	40	35	5	30	27	3	15	11	4	10	8	2	95	81	14	14.7%
教員計	68	59	9	54	45	9	24	18	6	10	8	2	156	130	26	
女性割合 (%)	13.2%			16.7%			25.0%			20.0%			16.7%			

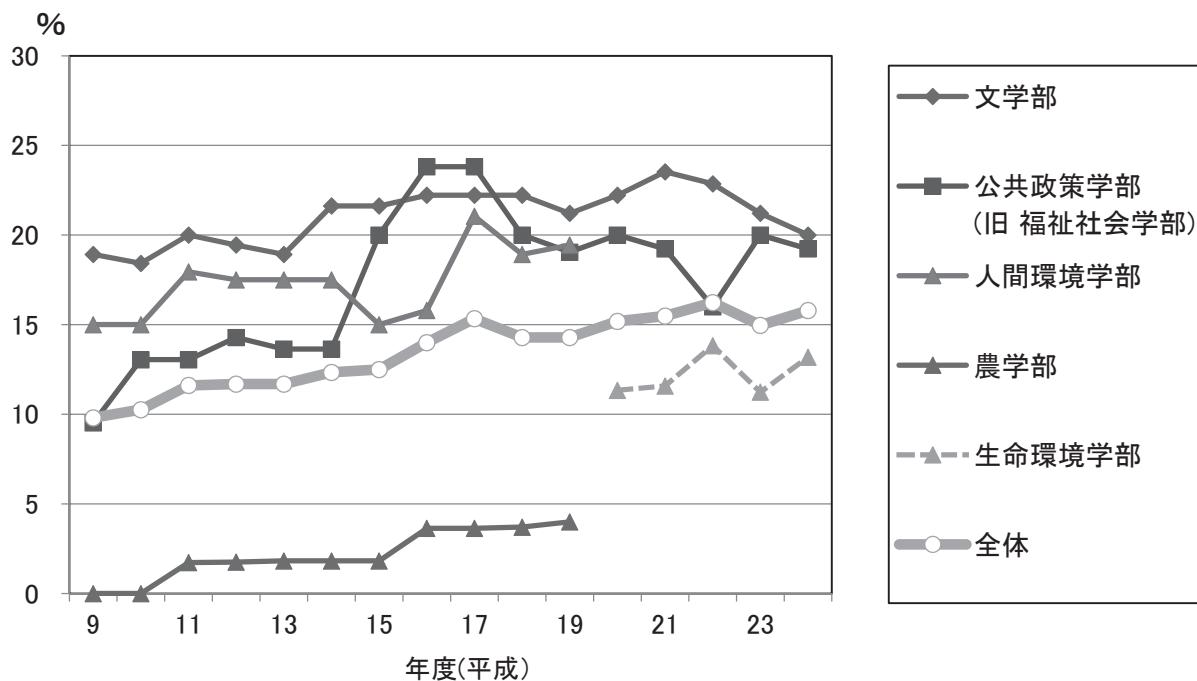
### 学部別



### 職階別



## 女性教員の比率の推移



(単位：人)

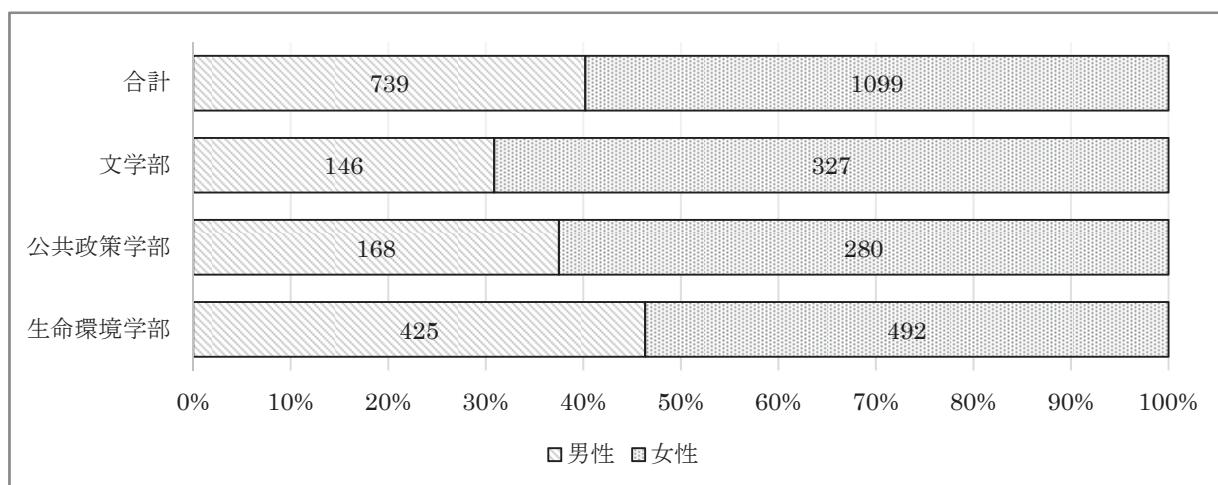
		文学部	公共政策学部 (旧 福祉社会学部)	人間環境学部	農学部	生命環境学部	女性教員 比率(%)
平成 9 年	1997 年	7	2	6	0		9.8
平成 10 年	1998 年	7	3	6	0		10.3
平成 11 年	1999 年	7	3	7	1		11.6
平成 12 年	2000 年	7	3	7	1		11.7
平成 13 年	2001 年	7	3	7	1		11.7
平成 14 年	2002 年	8	3	7	1		12.3
平成 15 年	2003 年	8	4	6	1		12.5
平成 16 年	2004 年	8	5	6	2		14.0
平成 17 年	2005 年	8	5	8	2		15.3
平成 18 年	2006 年	8	4	7	2		14.3
平成 19 年	2007 年	7	4	7	2		14.3
平成 20 年	2008 年	8	5		11		15.2
平成 21 年	2009 年	8	5		11		15.5
平成 22 年	2010 年	8	4		13		16.2
平成 23 年	2011 年	7	5		10		15.0
平成 24 年	2012 年	7	5		12		15.8
平成 25 年	2013 年	7	5		14		16.7

昭和 24 年(1949)に農学部発足。平成 9 年 (1997) に福祉社会学部及び人間環境学部発足。

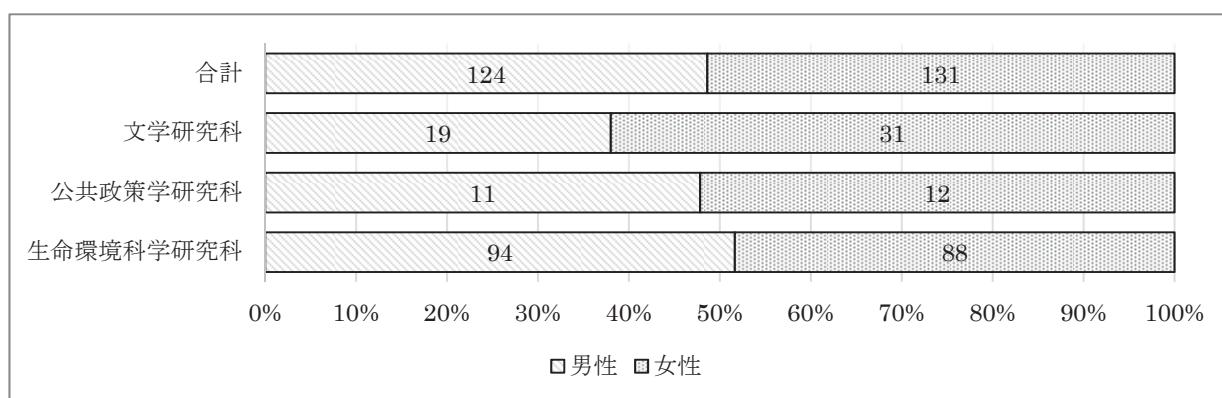
平成 20 年 (2008) に公共政策学部及び生命環境学部発足。

学生・大学院生の男女比率 (平成25年5月1日現在)

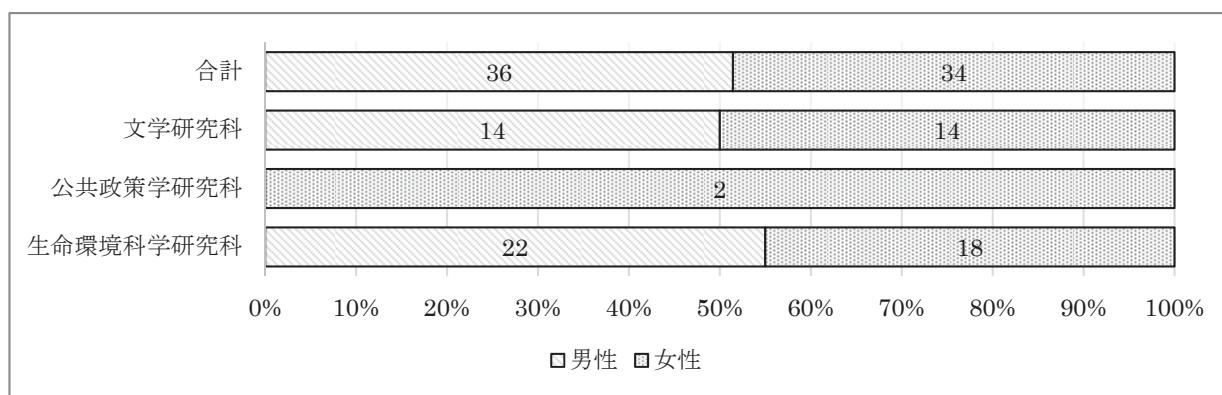
学部生



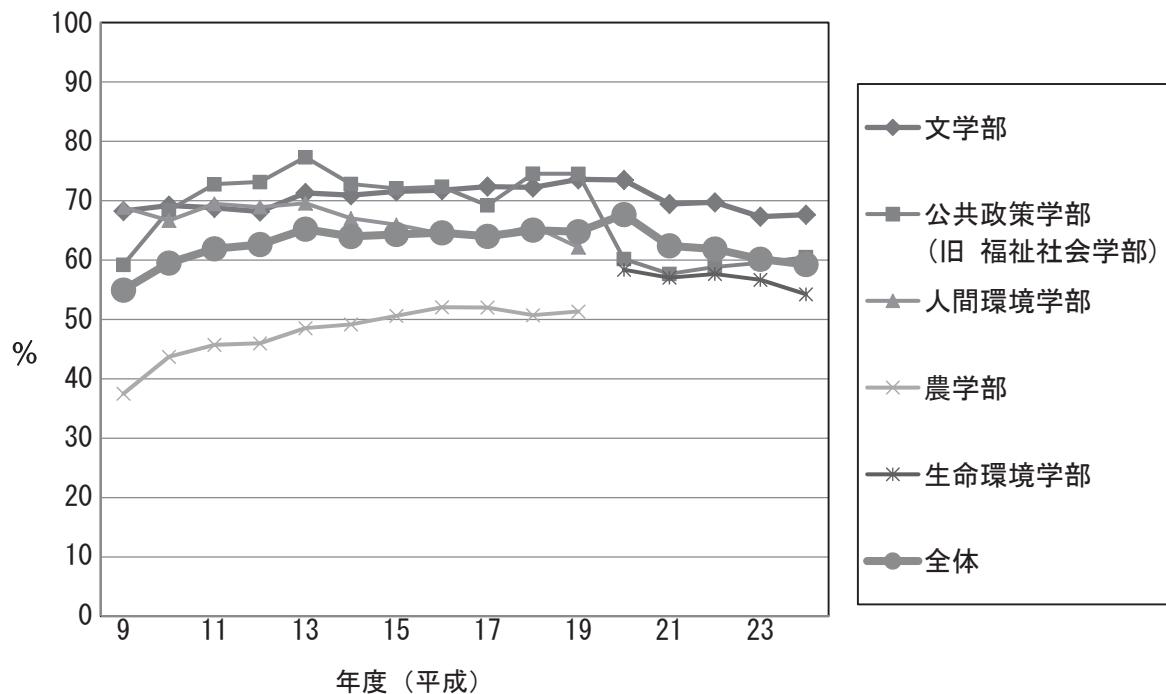
博士前期課程



博士後期課程



## 学生に占める女性の割合の年次推移



(単位 %)

		文学部	公共政策学部 (旧 福祉社会学部)	人間環境学部	農学部	生命環境学部	全学 平均比率 (%)
平成 9 年	1997 年	68.3	59.2	68.9	37.5		55.0
平成 10 年	1998 年	69.2	68.4	66.7	43.7		59.5
平成 11 年	1999 年	68.8	72.8	69.5	45.7		61.9
平成 12 年	2000 年	68.2	73.2	68.9	46.0		62.6
平成 13 年	2001 年	71.3	77.3	69.6	48.5		65.2
平成 14 年	2002 年	70.9	72.8	67.0	49.2		64.0
平成 15 年	2003 年	71.6	72.1	66.0	50.6		64.3
平成 16 年	2004 年	71.8	72.4	64.5	52.0		64.6
平成 17 年	2005 年	72.4	69.2	63.8	52.0		64.0
平成 18 年	2006 年	72.2	74.5	65.8	50.7		65.0
平成 19 年	2007 年	73.6	74.5	62.2	51.3		64.8
平成 20 年	2008 年	73.5	60.2			58.4	67.7
平成 21 年	2009 年	69.4	57.7			57.0	62.4
平成 22 年	2010 年	69.7	58.8			57.7	61.9
平成 23 年	2011 年	67.3	59.5			56.7	60.2
平成 24 年	2012 年	67.6	60.5			54.2	59.3
平成 25 年	2013 年	69.1	62.5			53.7	60.3

昭和 24 年(1949)に農学部発足。平成 9 年(1997)に福祉社会学部及び人間環境学部発足。

平成 20 年(2008)に公共政策学部及び生命環境学部発足。



# V 規程・要項



## 京都府立大学男女共同参画推進委員会規程

(平成25年京都府立大学規程第1号)

### (設置)

第1条 京都府立大学における男女共同参画の推進を図るため、男女共同参画推進委員会（以下「推進委員会」という。）を置く。

### (組織)

第2条 推進委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 京都府立大学副学長規程第2条第1号に掲げる事項を担当する副学長（以下「副学長」という。）
- (2) 文学部長、公共政策学部長及び生命環境科学研究科長
- (3) 事務局長
- (4) 文学部教員及び公共政策学部教員各1名、生命環境科学研究科教員2名

### (任期)

第3条 前条第4号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長及び副委員長)

第4条 推進委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長には副学長を充て、副委員長は委員長が指名する。
- 3 委員長は、推進委員会の会議を主宰する。
- 4 副委員長は、委員長の職務を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

### (所掌事項)

第5条 推進委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 男女共同参画の基本方針の策定
- (2) 男女共同参画の推進に関する事項
- (3) 女性研究者研究活動支援に関する事項
- (4) その他男女共同参画の普及・啓発に関する事項

### (会議)

第6条 推進委員会の会議は、委員の過半数の出席がないときは、開くことができない。

### (意見の聴取)

第7条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を推進委員会に出席させ、意見を聞き、又は説明を求めることができる。

### (事業の推進)

第8条 男女共同参画の具体的取組を推進するため、委員会に男女共同参画推進室（以下「推進室」という。）を設置する。

- 2 推進室に事業を総括する室長を置き、委員長をもって充てる。
- 3 推進室にプロジェクトリーダーを置き、委員の中から委員長が指名する。
- 4 推進室長は、委員以外の京都府立大学教職員を所属長の承認を得て推進室の業務にあたらせるこ

とができる。

(庶務)

第9条 推進委員会の庶務は、管理課総務担当において処理する。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成25年10月9日から施行する。

(経過措置)

2 委員会発足時の委員の任期は、第3条第1項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

## 京都府立大学女性研究者研究活動支援事業による研究支援員制度利用者募集案内

文部科学省の平成25年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に本学の提案が採択され、平成25年度から27年度の3か年、研究者・若手研究者・同窓生による学内女性ネットワークの形成をコンセプトに、主に女性研究者の研究活動への支援策に取り組むこととなりました。

「研究支援員制度（かつらプロジェクト）」はその支援策の一つで、妊娠・出産・子育て・介護等のライフイベントにより、一定期間、研究活動の継続が困難あるいは研究時間が十分に確保できない研究者を支援するものです。研究支援員を配置することで、研究の継続と機会を保障し、本学における研究活動の一層の活性化を目指します。利用を希望する方は下記に従い申請を行ってください。

### 1. 利用資格

本学の常勤教員であって、以下に掲げるいずれかの項目を満たしている方。

- (1) 妊娠中の女性教員、または妊娠中の配偶者（大学教員に限る）を有する男性教員
  - (2) 女性教員、または配偶者（大学教員に限る）を有する男性教員で、中学校3年生までの子どもを養育中の方
  - (3) 女性教員、または配偶者（大学教員に限る）を有する男性教員で、市町村から要介護の認定を受けている親族（同居、別居は問わない）を介護している方
  - (4) その他、上記に準ずる理由により研究活動を行う時間が確保できない方
- ※ 産前・産後の特別休暇中、育児休業中などにより研究活動を中断している教員は支援の対象なりません。
- ※ 配偶者が大学・大学共同利用機関、独立行政法人で雇用されている非常勤講師を含む大学教員である方も含みます。

### 2. 研究支援員の業務内容について

教員の実験・調査の補助、データの入力・分析、学会資料や報告書類の作成、その他、研究業務の補助

※ 研究支援員は、教員の指示に従って業務を行います。

### 3. 研究支援員対象者（原則、本学の在籍者に限る）

研究支援員：原則、大学院博士後期課程に在籍する方

※ 研究支援員は、女性を優先します。

※ 教員1名につき、計4名を採用できます。

### 4. 研究支援員1名あたりの勤務時間について

週 20 時間以内

(RA・TA にすでに雇用されている場合は、勤務時間の合計が週 20 時間以内)

※ なお予算の都合上、勤務時間数を調整していただく場合があります。

5. 教員 1 名あたりの上限時間数について

週 28 時間を上限時間とします。

6. 研究支援員の報酬について

研究支援員の報酬は、1 時間 1,000 円となります。

7. 利用期間

平成 26 年 3 月 31 日まで

ただし、教員が、当該期間に研究支援員制度の利用資格を失った場合は、当初の予定期間の終了を待たずに研究支援員の配置を終了します。

8. 募集人員

教員 10 名程度

9. 申請締切

平成 25 年 11 月 22 日（金）17 時（持参）

10. 選考方法

- 上記申請のあった者のうちから、男女共同参画推進委員会が選考、決定します。
- 記載された個人情報およびプライバシーに関する情報は、本制度における選考のみに使用するものであり、提出された申請書等は原則として返却いたしません。

11. 選考結果

男女共同参画推進室長から申請者本人に通知します。

## 12. 申請方法

以下の書類を、男女共同参画推進室に持参してください。

<提出書類>

- ・ 研究支援員制度利用申請書（別紙様式1）  
(支援員候補者の氏名を記入してください)
- ・ 教員と対象となる家族との続柄および養育する子どもの生年月日が証明できる公的書類  
(健康保険証、母子健康手帳、介護認定通知書、住民票、戸籍謄本などの写し等。該当箇所を提出してください)

## 13. 実績報告書の提出

教員は、利用期間終了後、速やかに研究支援員制度雇用報告書（別紙様式2）を男女共同参画推進室に提出してください。

## 14. 活動報告書の提出

研究支援員は、活動期間終了後、速やかに研究支援員活動報告書（別紙様式3）を男女共同参画推進室に提出してください。

## 15. お問合せ・提出先

京都府立大学 男女共同参画推進室（1号館3F）

コーディネーター：鈴木（内線 5143）

メールアドレス : danjo@kpu.ac.jp

※ 研究支援員の報酬は、文部科学省 平成25年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業費」から支給されます。

## 京都府立大学女性研究者研究活動支援事業による保育支援プログラム利用者募集案内

### 1. 趣旨

文部科学省の平成25年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に本学の提案が採択され、平成25年度から27年度の3か年、研究者・若手研究者・同窓生による学内女性ネットワークの形成を目的として、主に女性研究者の研究活動の支援策に取り組むこととなりました。

「保育支援プログラム」はその支援策の一つで、研究者が出産・育児と研究活動を両立し、研究活動が一層活性化するように、子どもの発熱時や夜間、休日に利用する保育利用料に対して補助をする制度です。

### 2. 対象者

本学の研究者（特任、学術研究員を含む）で、下記のいずれかに該当する者

- ③ 小学校6年生までの子どもを養育中の女性研究者
- ④ 配偶者（大学等で日常的に研究を行う研究者に限る）を有し、小学校6年生までの子どもを養育中の男性研究者

- 2 産前・産後の特別休暇中、育児休業中などにより研究活動を中断している研究者は支援の対象外とします。
- 3 男性研究者の場合、配偶者が大学・大学共同利用機関、独立行政法人で雇用されている研究者であり、かつ配偶者が日常的に研究を行う研究者である場合に限ります。

### 3. 支援内容

対象となる研究者の子どもが急な発熱等で病児・病後児保育を利用する場合及び通常の保育（保育園等）とは別に、夜間保育、休日保育サービスを利用した場合、以下の条件で支援します。

- ① 利用料の2分の1を男女共同参画推進室が負担します。
- ② 平成25年度の補助上限金額は、子ども一人あたり6万円です。
- ③ 保育サービスの入会金・登録料・保険代・キャンセル料は支援の対象外となります。

### 4. 支援期間

平成26年3月31日までの利用分が対象になります。

但し、平成26年4月以降も、募集を行う予定で、必要に応じて更新することが可能です。

5. 募集人数

10名程度

6. 申請締切

平成26年1月14日（火）17時 持参

7. 選考

支援対象者の選考は、別紙様式1「利用申請書」を、男女共同参画推進委員会が審査のうえ、優先度を勘案し、予算の範囲内で、対象者を決定します。

8. 応募方法

別紙様式1と共に、下記申請書類を男女共同参画推進室まで提出してください。

- ① 子を養育していることが証明できる書類（住民票、健康保険証、母子健康手帳等の等の写し）
- ② 養育する子どもの年齢を証明できる書類（住民票、健康保険証、母子健康手帳等の写し）
- ③ 利用する保育サービスの実施概要、利用料がわかる書類（パンフレット等）

9. 利用状況の報告

利用対象者は、毎月10日までに、前月分利用実績を別紙様式2「利用報告書」及び利用料の証憑書類（領収書等）、別紙様式3「利用助成申請書」とともに男女共同参画推進室へ提出してください。

10. 利用料の支払

別紙様式2「利用報告書」及び別紙様式3「利用助成申請書」、利用料の証憑書類（領収書等）を確認後、補助金額を支払います。

11. お問合せ・提出先

京都府立大学 男女共同参画推進室（1号館3F 1310号室）

コーディネーター：鈴木（内線5143）

メールアドレス：danjo@kpu.ac.jp

12. その他

保育支援プログラムの補助金は、文部科学省 平成25年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業費」から支給されます。

## 京都府立大学女性研究者研究活動支援事業による「京都府立大学あおいセミナー」募集要項

男女共同参画推進室では、女性研究者の研究活動の一層の促進をめざすため、女性研究者を講師として招聘する研究会・講演会等を学内で実施する場合、謝金・交通費の補助を行う「京都府立大学あおいセミナー」の企画を募集します。

### 1. 募集対象者

本学に在籍する常勤教員

### 2. 募集内容

平成26年2月3日(月)～平成26年3月25日(火)迄に実施し、女性研究者を講師とする研究会・講演会等の企画案

※国内からの招聘に限る。

※他の研究会・講演会等との共催や授業への招聘も可。

※研究会・講演会内容に自身の女性研究者としてのキャリア形成、ライフイベントとの両立の視点が盛り込まれていること。

### 3. 応募方法

平成26年1月27日(月)～2月25日(火)迄に「平成25年度文部科学省女性研究者研究活動支援事業 京都府立大学あおいセミナー企画応募用紙」(別紙様式1)を、男女共同参画推進室へ提出(持参)

### 4. 募集件数

3件程度 (但し、予算の状況により調整することがあります)

### 5. 助成額

旅費・謝金の合計金額上限2万円

\*学内規程に沿った講師謝金・旅費の金額を応募用紙に記入の上、提出ください。

### 6. 実施スケジュール

- (1) 平成26年1月27日(月)～2月25日(火)迄 企画募集、申請書提出
- (2) 男女共同参画推進委員会で審査、対象事業を決定
- (3) 平成26年2月3日(月)～3月25日(火)迄に研究会・講演会等を実施
- (4) 事業実施後、2週間以内に実施報告書(別紙様式2)を提出(平成26年3月28日までに必ず提出してください。)

(5) 報告書は男女共同参画推進室ホームページに掲載

7. 留意事項

- 実施の前に、必ず、男女共同参画推進室に応募書類を提出してください。研究会・講演会等終了後の応募は認められません。
- 実施の際は、研究会・講演会等に「第〇回 京都府立大学あおいセミナー」と表記し（併記可）、開始してください。

8. 応募書類の提出先および問い合わせ先

男女共同参画推進室 1号館3F 1310号室（担当 鈴木・長谷川）

Tel (075) 703-5143 (内線5143)

Mail : danjo@kpu.ac.jp



## VI 実施体制



## 平成 25 年度 男女共同参画推進委員会 委員一覧

東 あかね	副学長 男女共同参画推進委員会委員長・男女共同参画推進室長 生命環境科学研究科教授
野口 祐子	文学部学部長 男女共同参画推進委員会副委員長
川分 圭子	文学部教授（研究者両立支援（かつらプロジェクト）リーダー）
小沢 修司	公共政策学部教授（意識啓発プロジェクトリーダー）
吉岡 真佐樹	公共政策学部学部長
牛田 一成	生命環境科学研究科研究科長
高野 和文	生命環境科学研究科教授
リントゥルオト 正美	生命環境科学研究科准教授（若手研究者育成（あおいプロジェクト）リーダー）
稻村 智史	事務局長

## 平成 25 年度 男女共同参画推進室 室員一覧

東 あかね	男女共同参画推進室長
山田 邦子	管理課 主査
鈴木 曜子	コーディネーター（総括）
長谷川 里奈	特別研究補助員（あおいプロジェクト担当）
得能 真子	事務スタッフ
鷹野 静代	オフィスアシスタント（同窓会との連携担当）
後藤 春美	オフィスアシスタント（広報担当）

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
女性研究者研究活動支援事業（一般型）  
(活動期間：平成 25 年度～平成 27 年度)

平成 25 年度 京都府立大学男女共同参画推進室 事業報告書

発行日 平成 26 年 3 月 発行  
発行 京都府立大学男女共同参画推進室  
連絡先 〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5  
TEL 075-703-5143  
FAX 075-703-5149  
URL <http://kpu-sankaku.jp/>  
E-mail danjo@kpu.ac.jp



